平成23年度

がん治療高度専門家養成プログラム履修要項



東京医科歯科大学

目 次

プログラム修了の要件並びに履修方法	1
時間割	5
がん専門医養成コース	
総合基礎	
がんの細胞生物学概論	10
がんの分子生物学概論	12
がんの病理・病態学概論	14
がんのシステム生物学概論	16
がんの社会医学概論	18
がん患者学······	20
がん患者学演習	22
総合発展	
がんの放射線診療	24
頭頸部がんの診療	26
臓器別がんの診療	28
放射線療法	
放射線基礎・放射線応用	30
化学療法	
抗がん剤薬理学概論 I ・ II	32
緩和ケア	
緩和基礎	
緩和医療学概論	34
精神腫瘍学特論	36
緩和医療における身体症状論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	38
緩和応用	
疼痛マネジメント (基本編)	40
疼痛マネジメント (応用編)	42
緩和医療におけるリエゾン精神医学特論	44
がん看護専門看護師養成コース	
看護学研究法特論	48
看護教育学特論Ⅱ	50
看護政策学特論	52
看護管理学特論	53
看護病能牛理学	55

	在宅ケア・緩和ケア看護学特論 A - 1 ······	57
	在宅ケア・緩和ケア看護学特論 A - 2 ······	59
	在宅ケア・緩和ケア看護学演習 A · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	61
	在宅ケア・緩和ケア看護学特論B	63
	在宅ケア・緩和ケア看護学演習 B · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	65
	在宅ケア・緩和ケア看護学実習	67
	専攻教育課程照合表	69
夕	E学物理士養成コース・放射線治療品質管理士養成コース	
夕	医学物理士養成コース・放射線治療品質管理士養成コース 科目一覧表	72
医		72
医		72 73
区	科目一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
医	科目一覧表····· 本学構内案内図·····	73

プログラム修了の要件並びに履修方法

1. 修了の要件

・がん専門医師養成コース

放射線療法専門医師養成コース

放射線療法専門医師養成コースに設定された講義および演習の必修科目全体の3/4 以上の科目において単位を取得し、かつ設定された実習において単位を取得した場合 に、本コースのプログラムを修了したものとする。ただしそれまでの履修実績などを 勘案し指導教員が本プログラムにおいて単位取得の必要がないと判断した科目につい ては、必須要件から除外することができる。なお、本コースを履修する学生が属する 課程については、本プログラムの取得単位を含めて課程が求める単位数以上を修得し、 かつ必要な論文指導を受けた上で、医歯学総合研究科が行う論文の審査及び最終試験 に合格することが修了要件となる。

化学療法専門医師養成コース

化学療法専門医師養成コースに設定された講義および演習の必修科目全体の3/4以上の科目において単位を取得し、かつ設定された実習において単位を取得した場合に、本コースのプログラムを修了したものとする。ただしそれまでの履修実績などを勘案し指導教員が本プログラムにおいて単位取得の必要がないと判断した科目については、必須要件から除外することができる。なお、本コースを履修する学生が属する課程については、本プログラムの取得単位を含めて課程が求める単位数以上を修得し、かつ必要な論文指導を受けた上で、医歯学総合研究科が行う論文の審査及び最終試験に合格することが修了要件となる。

緩和ケア専門医師養成コース

緩和ケア専門医師養成コースに設定された講義および演習の必修科目全体の3/4以上の科目において単位を取得し、かつ設定された実習において単位を取得した場合に、本コースのプログラムを修了したものとする。ただしそれまでの履修実績などを勘案し指導教員が本プログラムにおいて単位取得の必要がないと判断した科目については、必須要件から除外することができる。なお、本コースを履修する学生が属する課程については、本プログラムの取得単位を含めて課程が求める単位数以上を修得し、かつ必要な論文指導を受けた上で、医歯学総合研究科が行う論文の審査及び最終試験に合格することが修了要件となる。

・コメディカルコース

がん専門看護師養成コース

保健衛生学研究科博士課程において、がん看護専門看護師履修要件である科目26単

位を含め学生が属する課程の修了要件単位数を履修し、かつ必要な論文指導を受けた 上で、保健衛生学研究科が行う論文の審査及び最終試験に合格することが修了要件と なる。

医学物理士養成コース

医学物理士養成コースに設定された講義および演習の必修科目全体の3/4以上の科目において単位を取得した場合に、本コースのプログラムを修了したものとする。なお、本コースを履修する学生が属する課程については、本プログラムでの取得単位を含めて課程が求める修了要件に従うものとする。

放射線治療品質管理士養成コース

放射線治療品質管理士養成コースに設定された講義および演習の必修科目全体の3/4以上の科目において単位を取得した場合に、本コースのプログラムを修了したものとする。なお、本コースを履修する学生が属する課程については、本プログラムでの取得単位を含めて課程が求める修了要件に従うものとする。

インテンシブコース

がん医療専門医師研修コース

それぞれの研修専門分野において実施される授業科目において8単位相当を受講し、 成績評価を受け全てに合格すること。

研修専門分野

- 放射線療法
- 化学療法
- 緩和ケア

2. 履修方法

修得すべき単位の履修方法は次による。

がん専門医師養成コース

「放射線療法専門医師養成コース」「化学療法専門医師養成コース」「緩和ケア専門医師養成コース」のそれぞれのコースの履修方法については、所定の授業科目の履修登録を医歯学総合研究科博士課程の履修登録と同様に行うものとする。

コメディカルコース

「がん専門看護師養成コース」の履修登録は、保健衛生学研究科博士(前期)課程、または博士(後期)課程の履修登録時に合わせて行うものとする。

「医学物理士養成コース」の履修については、東京工業大学の医歯工学特別コースに

おける所定の手続きによるものとする。

「放射線治療品質管理士養成コース」の所定の授業科目の履修方法は、医歯学総合研 究科修士課程あるいは博士課程の履修登録時に合わせて行うものとする。

インテンシブコース

本コースについては、大学院授業とは別に定める。

3. 講義時間

がん専門医師養成コース

1時限 18:00~19:30 2時限 19:40~21:10 原則として上記時間帯に講義を行う。

コメディカルコース

- ・がん看護専門看護師コース 本学保健衛生学研究科の定める時間割に従うものとする。
- ・医学物理士養成コース 東京工業大学の定める時間割に従うものとする。

4. 講義室

がん専門医師養成コース

大学院講義室 3・・・・M&D タワー11 階

原則として、上記講義室で実施するが、都合により変更になることもある。

日本医科大学で行う講義については

原則として、日本医科大学大学院棟地下 2 階 第 3 演習室で実施するが、都合により変更になることもある。

コメディカルコース

・ がん看護専門看護師コース

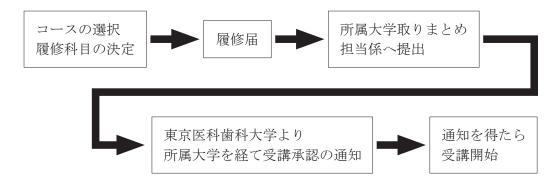
本学保健衛生学研究科の定める講義室において実施する。

・医学物理士養成コース

東京工業大学 田町キャンパス CIC (キャンパスイノベーションセンター) において実施。詳細は東京工業大学で定める。

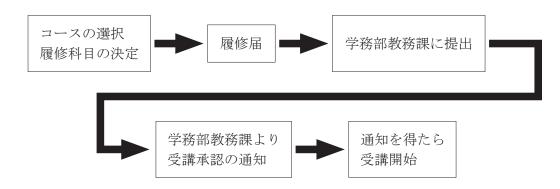
5. 申込方法

協定大学生



- 1. コースを選択し、履修科目の決定
- 2. 履修届けを記入(東京医科歯科大学がんプロ専用様式)
- 3. 所属大学取りまとめ担当係へ提出 (取りまとめ担当係は大学により係が異なるため各大学へ問合せてください)
- 4. 東京医科歯科大学より所属大学を経て受講承認の通知
- 5. 通知を得たら受講開始

東京医科歯科大学生



- 1. コースを選択し、履修科目の決定
- 2. 履修届けに記入(指導教員認印が必要)
- 3. 履修届けを学務部教務課に提出
- 4. 研究科運営委員の審査を行い後日、学務部教務課より受講承認の通知
- 5. 通知を得たら受講開始

平成23年度 がん治療高度専門家養成プログラム時間割

			Ι				担 当 券	員及び分担詳	細科目	
種別	ページ	科 目 名	講義場所	単位	科目責任者	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
総合基礎				_						
	10	がたの細胞生物学概念	_		北公原如	4月11日	4月12日	4月13日	4月14日	4月15日
	10	がんの細胞生物学概論 	A	1	水谷修紀	中釜 斉	畑裕	清水重臣 寺岡弘文	寺岡弘文 水谷修紀	吉岡研一 高木正稔
	12	がんの分子生物学概論	А	1	湯浅保仁	4月25日	4月26日	4月27日	4月28日	祝日
			<u> </u>	<u> </u>		秋山好光	湯浅保仁	深町博史	渋谷正史	
	14	がんの病理・病態学概論	А	1	江石義信	5月9日 江石義信 北川昌伸	5月10日 小林大輔 河内 洋	5月11日 明石 巧 熊谷二朗	5月12日 秋田恵一	5月13日 秋田恵一
総合基礎	16	がんのシステム生物学概論	А	1	田中 博	5月16日	5月17日	5月18日	5月19日	5月20日
						田中 博 5月23日	水島 洋 5月24日	下川和郎 5月25日	小田夏奈江 5月26日	
	18	がんの社会医学概論(MMA)	A+B	1	樋口哲郎	河原和夫	小池竜司	吉田雅幸	富田 誠	中山健夫
	20	がん患者学	D	1	高橋秀実	5月30日	5月31日	6月1日	6月2日	6月3日
					1-711-777-7	高橋秀実	高橋秀実	志村俊郎	高柳和江	高柳和江
	22	がん患者学演習	D	1	高橋秀実	6月6日 高橋秀実	6月7日 吉村明修	6月8日 高橋秀実	6月9日 高柳和江	6月10日 高柳和江
総合演習		 包括的がん治療学演習	A	1	樋口哲郎	回铜ガ天		両値が天 サーボードにて		마까까다스
総合発展			<u> </u>	<u> </u>						
		18.1 a H 616656 ±			Mr (A. II	10月31日	11月1日	11月2日	祝日	11月4日
	24	がんの放射線診療	Α	1	渋谷 均	星 章彦 吉村亮一	唐澤克之 林 敬二	小口正彦		伊藤芳紀 渋谷 均
						11月7日	11月8日	11月9日	11月10日	
	26	頭頸部がんの診療 	Α	1	岸本誠司	杉本太郎 川端一嘉	岸本誠司 佃 守	渋谷 均 未定	谷口 尚小村 健	
	28		А		三浦 修			11月14日		
総合発展			<u> </u>			青柳 傑	梶原道子	新井文子		
	28		Α	1	有井滋樹	中島康晃	有井滋樹	11月18日 井ノ口幹人	植竹宏之	
	00	- 臓器別がんの診療			久保田俊郎			11月21日		
	28	(大学院セミナーと共催)	Α		ス 休田 俊郎	古賀文隆	尾崎喜一	佐藤隆宣		
	28		А		原田浩之	原田浩之	澤村千草	11月25日 西澤 綾		
					大久保憲一	小田石と	(+13.1 平	12月2日	I	
	28		Α			大久保憲一	池田徳彦	坂下博之	唐澤克之	
がん放射線療	法専門	医師養成コース 	1	ı		0.5	0.5	05	05:5-	0.5
	30	放射線物理学·放射線技術学特論	E	1	三浦雅彦	9月12日 阿部慎司	9月13日 阿部慎司	9月14日 阿部慎司	9月15日 保科正夫	9月16日 保科正夫
11.4		DE 10-14-14-14-14-14-14	_			9月26日	9月27日	9月28日	9月29日	9月30日
放射線基礎	30	腫瘍放射線生物学特論 	E	1	三浦雅彦	三浦雅彦	三浦雅彦	三浦雅彦	渡邊 裕	三浦雅彦
	30	腫瘍放射線診断学・核医学特論	E	1	大橋 勇	10月3日	10月4日	10月5日	10月6日	10月7日
						大橋勇	大橋 勇 10月11日	大橋 勇	大橋 勇	久保田一徳
放射線応用	30	腫瘍放射線治療学特論	E	1	渋谷 均	祝日	10月11日 渋谷 均	10月12日 渋谷 均	10月13日 渋谷 均	10月14日 渋谷 均
化学療法専門	医師養	或コース		_						
		抗がん剤薬理学概論 I	А	1	安原眞人	10月17日	10月18日	10月19日	10月20日	10月21日
化学療法	32					安原眞人 10月24日	谷川原祐介 10月25日	10月26日	岡田弘晃 10月27日	五井郁巳 10月28日
		抗がん剤薬理学概論 II	Α	1	安原眞人	三木義男	大杉義征	77.201	林良雄	小竹良彦
緩和ケア専門	医師養用	ポコース	1	1						
	34	緩和医療学概論	А	1	松島英介 荻原隆二	6月13日 萩原隆二	6月14日 冨田 伸	6月15日 松下年子	6月16日 小池眞規子	6月17日 鈴木荘一
緩和基礎	36	精神腫瘍学特論	А	1	松島英介	6月20日	6月21日	6月22日	6月23日	6月24日
極性萎促	30	イ円 1 〒 <i>0</i> 王 <i>7 7</i> 万 一 7 寸 ロ間	_ ^	Ľ	山山田大川	松島英介	清水 研	野口 海	大西秀樹	織田健司
	38	緩和医療における身体症状論	Α	1	松島英介 山田陽介	6月27日 的場元弘	6月28日 吉澤明孝	6月29日	6月30日	7月1日 小澤竹俊
	40	佐藤寺寺がより17世寺寺			松島英介	7月4日	7月5日	7月6日	7月7日	7月8日
	40	疼痛マネジメント(基本編)	А	1	山田陽介	下山直人	高野利実	田中桂子	堀 夏樹	兼近口山
緩和応用	42	疼痛マネジメント(応用編)	А	1	松島英介 山田陽介	7月11日	7月12日	7月13日	7月14日	7月15日
和政介以外シ/11			-		山田啄汀	三枝好幸 祝日	林 章敏 7月19日	小澤美和 7月20日	行田泰明 7月21日	永井英明 7月22日
	44	緩和医療におけるリエゾン精神医学特論	D	1	大久保善朗		上田 諭	岸泰宏	伊藤隆雄	肥田道彦
			<u> </u>	1			— H HDV	/1 ****	17 小小下工 柳丘	大久保善朗

T# Du		T	-#-44-10	.w. /.l	ひロキビヤ	担当教員及び分担詳細科目					
種別	ページ	科 目 名 	講義場所	単位	科目責任者	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	
がん治療専門	看護師	養成コース									
	48	看護学研究法特論	С	2	山本則子	前期 月曜日	ョ Ⅲ・Ⅳ時限	4月11日~7月	月25日		
CNS共通	50	看護教育学特論 II	С	2	井上智子	後期 木曜日	∃ Ⅳ・Ⅴ時限	日程未定			
科目 	52	看護政策学特論	С	2	深掘浩樹	後期 火曜日	目 Ⅰ・Ⅱ 時限	10月4日~1月 14,15回目は			
	53	看護管理学特論	С	2	深掘浩樹	前期 火曜日	∃ Ⅰ・Ⅱ 時限	4月19日~7月	月19日		
	57	在宅ケア・緩和ケア看護学特論A-1	С	2	本田彰子 山崎智子	前期 月曜日	∃ Ⅰ・Ⅱ 時限	4月11日~6月	月6日		
	59	在宅ケア・緩和ケア看護学特論A-2	С	2	本田彰子 山崎智子	前期 金曜日	∃ Ⅰ・Ⅱ 時限	4月8日~6月	3日		
CNS専門 科目	55	看護病態生理学	С	2	本田彰子 山崎智子	前期 木曜日	3 V時限 4月	月7日~7月28日	∃		
(がん看護)	61	在宅ケア・緩和ケア看護学演習A	С	2	本田彰子 山崎智子	後期 火曜日	∃ Ⅲ・Ⅳ時限	10月4日~1月	月24日		
	63	在宅ケア・緩和ケア看護学特論B	С	2	本田彰子 山崎智子	後期 月曜日	∃ Ⅲ時限 10	月3日~2月6日	∃		
per title dil nome is obta	65	在宅ケア・緩和ケア看護学演習B	С	2	本田彰子 山崎智子	後期 月曜日	∃ IV·V時限	日程未定			
医子初埋工養	ルコーフ	ス・放射線治療品質管理士コース │	1			0 日 0 0 □	0 日 0 0 口	0 日 0 4 口	0 8 0 5 7	0 日 0 0 日	
	72	医歯工学概論	E	1	小杉幸夫	8月22日 高瀬浩造	8月23日 高瀬浩造	8月24日	8月25日 田中順三	8月26日	
	72	人間安全工学	E	1	伊能教夫	8月29日	8月30日	8月31日	9月1日	9月2日	
MME基礎	72	人体機能学	E	1	高瀬浩造	八木 透 8月29日 宗田 大	林崎規託 8月30日 三浦宏之	小杉幸夫 8月31日 東悠光子	中村 聡 9月1日 平尾見三	字治橋貞幸 9月2日 高瀬浩造	
	72	人体解剖・病態学	E	1	江石義信 秋田恵一	9月5日	9月6日	9月7日	9月8日	9月9日	
				1		山田哲夫	遠藤太嘉志	秋田恵一	秋田恵一	秋田恵一	
	72	医用画像情報学	E	2	小尾高史	小尾高史	小尾高史	√9日、9月12日 小尾高史	小尾高史	大山永昭	
	72	放射線物理学·放射線技術学特論	E	1	三浦雅彦	9月12日 阿部慎司	9月13日 阿部慎司	9月14日 阿部慎司	9月15日 保科正夫	9月16日 保科正夫	
	72	医用放射線生物学	E	1	三浦雅彦	9月26日	9月27日	9月28日	9月29日	9月30日	
						三浦雅彦	三浦雅彦	三浦雅彦 10月5日	渡邊 裕 10月6日	三浦雅彦	
	72	医用放射線診断学・核医学	E	1	大橋 勇	大橋 勇	大橋 勇	大橋 勇	大橋 勇	久保田一徳	
	72	放射線治療学	E	1	渋谷 均	祝日	10月11日	10月12日	10月13日	10月14日	
MME 医学物理	<u> </u>			Ė		10.77	渋谷 均	渋谷 均	渋谷 均	渋谷 均	
位于彻理	72	放射線治療物理学	E	2	河原俊之	10月17日 河野俊之	10月18日 金井達明	10月19日 金井達明	10月20日 金井達明	10月21日 金井達明	
	72		E	1	山父妄迦	10月17日	10月18日	10月19日	10月20日	10月21日	
	/2	核医学物理学		Ľ	山谷泰賀	山谷泰賀	山谷泰賀	山谷泰賀	山谷泰賀	山谷泰賀	
	72	医用放射線発生装置学	E	1	小栗慶之	10月24日 服部俊幸	10月25日 林崎規託	10月26日 小栗慶之	10月27日 小栗慶之	10月28日 小原 徹	
	72	医療機器開発概論	Е	2	小杉幸夫		9月12日~	-16日、9月26日	∃~30日		
	72					据川浩太郎 古川史郎 瀬尾育弐 井出勝 土曜午後5回適度		井出勝久 g	梶川浩太郎		
	12	放射線医療実習	E	L'	河野俊之	水野秀之	蓑原伸一	兼松伸幸			
実務		放射線治療品質管理学演習	Α	2	渋谷 均						
病院実習		がん放射線療法病院実習		24					<u> </u>		
		がん化学療法病院実習		24							
		緩和ケア病院実習		24							
病院実習	67	在宅ケア・緩和ケア看護学実習		6			1年後	期、2年前期・	後期	I	
		放射線測定実習		1							
		放射線病院実習	1	6							
	ı	1	A·医制造	_		ul				I.	

A: 医科歯科大 医歯学総合研究科 B: 医科歯科大 MMA C: 医科歯科大 保健衛生学研究科 D: 日本医大 (干駄木) E: 東工大 医歯工学特別コース(CIC 田町)

平成23年度 がん治療高度専門家養成プログラム時間割 日付順(がん治療専門看護師養成コースは除く)

月	日	時 限	月	火	水	木	金	講義場所	科目責任者	備	考
_	11~15	1 2		がん	の細胞生物学	概論	Α	水谷修紀			
4月	25~28	1 2		がんの分子	生物学概論			Α	湯浅保仁		
	9~13	1 2		がん	の病理・病態学	:概論	Α	江石義信			
	16~20	1 2		がんの	システム生物	学概論	Α	田中 博			
5月	23~27	1 2		がんの	社会医学概論	(MMA)	A+B	樋口哲郎			
	30~6/3	1 2			がん患者学		D	高橋秀実			
	6~10	1 2		7	がん患者学演習	3		D	高橋秀実		
	13~17	1 2		á	緩和医療学概論	À		Α	松島英介 荻原隆二		
6月	20~24	1		*	精神腫瘍学特論	À		Α	松島英介		
	27~7/1	1		緩和医	療における身体	症状論		A	松島英介		
	4~8	1		疼痛	マネジメント(基:	 本編)	A	山田陽介 松島英介 山田陽介			
7月	11~15	1		疼痛	マネジメント(応	用編)		A	松島英介 山田陽介		
	19~22	2			医療におけるリ			D	山田陽介 大久保善朗		
	22~26	2		492.114	医歯工学概論		14 000		小杉幸夫		
8月	29~9/2	*			人間安全工学			E	伊能教夫		
он		*									
	29~9/2				人体機能学	**		E	高瀬浩造 江石義信		
	5~9	*	人体解剖·病態学					E	秋田恵一		
	5~9	*		[医用画像情報学	≱	E	小尾高史			
	12~16	*							専門医師コース		
9月	12~16	*		放射線物	理学•放射線技	術学特論	E	三浦雅彦	コメディカルコー	ス共通講義	
	12~16	*		医	療機器開発概	論	E	小杉幸夫	市朋医好一 7		
	26~30	*	l	腫瘍放射線生	物学特論/医用	放射線生物学	E	三浦雅彦	専門医師コースコメディカルコー	ス共通講義	
	26~30	*		医	療機器開発概	論	E	小杉幸夫			
	3~7	*	腫瘍放射	対線診断学・核	医学特論/医用	放射線診断学	E	大橋 勇	専門医師コース コメディカルコー	ス共通講義	
	11~14	*		腫瘍	放射線治療学	持論/放射線治	療学	E	渋谷 均	専門医師コース コメディカルコー	
	17~21	*		放	射線治療物理	学		E	河原俊之		
10月	17~21	*			核医学物理学			E	山谷泰賀		
10/3	17~21	1 2	抗がん剤薬	理学概論 I		抗がん剤薬	理学概論 I	А	安原眞人		
	24~28	*		医用	放射線発生装	置学	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	E	小栗慶之		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	24~28	1 2	抗がん剤薬	理学概論Ⅱ		抗がん剤薬	理学概論Ⅱ	Α	安原眞人		
	31~11/4	1 2	がんの放射線診療 がんの 放射線診療					А	渋谷 均		
	7 ~ 10	1 2		頭頸部が	んの診療			А	岸本誠司		
11月	14•18	17:00~	臓器別 がんの診療				<u></u> 臓器別 がんの診療	А	14:三浦修 18:有井滋樹	14日は19:25ま 18日は20:15ま	<u></u>
	21 • 25	17:00~19:45	臓器別 がんの診療		がんの診療臓器別がんの診療				21:久保田俊郎 25:原田浩之	<u> </u>	
12月	2	17:00~20:15	.3 . 0 - 2 112 1370	んの診療 がんの診療 臓器別 がんの診療					大久保憲一		
	l .	178 1000					ルバリシが派		<u> </u>	445 土类障害	

1限:18:00~19:30

A:東京医科歯科大 M&Dタワー11F 大学院講義室3

B:東京医科歯科大 MMA

D:日本医大(千駄木)

E:東工大 医歯工学特別コース(CIC 田町)

²限:19:40~21:10

^{*}講義時間は東京工業大学の定めるものとする。履修者には決定次第連絡。 日にちが重なっていても講義時間は異なります。

平成23年度 がん治療高度専門家養成プログラム授業科目一覧

					専門医師	j	=	インテンシブ		
種別	科目名	備考	単位	放射線	化学療法 専門医師	緩和医療 専門医師	がん看護 CNS	医学 物理士	放射線治療品質管理士	保補科目
【総合基礎】										
	がんの分子生物学概論	Α	1			0		0		*
-	がんの細胞生物学概論	Α	1	•	•	Ö		Ö	•	*
《小人甘 7林	がんの病理・病態学概論・・・・・・・	Α	1	•	•	Ö	0			*
総合基礎	がんのシステム生物学概論	Α	1	0	0	0				
	がん患者学	D	1	•	•	•				*
	がん患者学演習	D	1	0	0	0				
(MMA)	がんの社会医学概論	A+B	1	0	0	0				*
総合演習	包括的がん治療学演習	Α	1							*
【総合発展】	· 兆 / 勿井射伯於唐 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	^		$\overline{}$						
総合発展	がんの放射線診療 頭頸部がんの診療	A	1	0	0	0		0	+ •	*
松口光放	臓器別がんの診療(大学院セミナー)	A	1	0	0	0			1	*
		_ A								_^
	放射線物理学・放射線技術学特論	Е	1 1							*
放射線基礎	腫瘍放射線生物学特論	Ē	1		<u> </u>	<u> </u>				*
	腫瘍診断学•核医学特論	Ē	1	0	 	 				*
放射線応用	腫瘍放射線治療学特論	E	_1							*
【化学療法専門医養成										
化学療法	抗がん剤薬理学概論Ⅰ	Α	1							*
	抗がん剤薬理学概論Ⅱ	Α	1							*
【緩和ケア専門医師養原										
	緩和医療学概論	Α	1			•				*
緩和基礎	精神腫瘍学特論	Α	1			•				*
	緩和医療における身体症状論	Α	1			•				*
郷でき	疼痛マネジメント(基本編)	Α	1		_	•				*
緩和応用	疼痛マネジメント(応用編)	A	1			•		-		
「が/込み事明手挙体	緩和医療におけるリエゾン精神医学特論	D	1	0	0	0				*
【がん治療専門看護師犯	看護研究法特論	С	2						_	
		С	2		 	 			+	
CNS共通科目 -	看護政策学特論	C	2						+	
	看護管理学特論	С	2							
	在宅ケア・緩和ケア看護学特論A-1	C	2							
_	在宅ケア・緩和ケア看護学特論A-2	C	2							
CNS専門科目	看護病態生理学	С	2							
(がん看護)	在宅ケア・緩和ケア看護学演習A	С	2				0			
	在宅ケア・緩和ケア看護学特論B	С	2							
	在宅ケア・緩和ケア看護学演習B	С	2							
【医学物理士コース・放	(射線治療品質管理士コース)									
_	医歯工学概論	Е	1						•	
MME基礎	人間安全工学	E	1					•	-	\vdash
-	人体機能学	E	1	<u> </u>		 		•	0	
	人体解剖病態学	E	1	 	 			•	0	\vdash
	医用画像情報学 医用放射線生物学	E	2	 	 	 		•	0	\vdash
-	医用放射線生物子 医用放射線診断学・核医学	E	1		 	 				
	放射線治療学	E	1		 	 				
MME医学物理	放射線治療物理学	E	2	+	 	 			+ -	
EE T 100-E	核医学物理学	E	1		<u> </u>	<u> </u>				
	医用放射線発生装置学	Ē	1		<u> </u>	<u> </u>				
	医療機器開発概論	Ē	2						1	
	放射線医療実習	E	1					Ö	0	
実務	放射線治療品質管理学演習	Α	2						•	
	がん放射線療法病院実習		24	•						
	がん化学療法病院実習		24		•					
病院実習	緩和ケア病院実習		24			•				
/内/元天白	在宅ケア・緩和ケア看護学実習		6				•			
	放射線測定実習 放射線病院実習		6					0	•	

日本がん治療認定医機構のセミナー科目内容に対応

●必修科 〇選択必修科目

A:東京医科歯科大学 医歯学総合研究科 B:東京医科歯科大学 MMA C:東京医科歯科大学 保健衛生学研究科 D:日本医科大学 (千駄木) E:東京工業大学 医歯工学特別コース(CIC 田町)

がん専門医師養成コース

種別:総合基礎

科目名:がんの細胞生物学概論

講義場所:東京医科歯科大学

科目担当責任教員:

水谷修紀 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

発生発達病態学分野 教授

科目担当教員:中釜 斉 国立がん研究センター研究所 副所長

畑 裕 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

病態代謝解析学分野 教授

清水重臣 東京医科歯科大学難治疾患研究所

病熊細胞生物学分野 教授

寺岡弘文 東京医科歯科大学 名誉教授

吉岡研一 国立がん研究センター研究所

腫瘍生物学分野 主任研究官

高木正稔 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

発生発達病態学分野講師

授業予定月日:平成23年4月11日 ~ 4月15日

授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- □ 細胞形態から物質代謝・エネルギー代謝も含め、正常細胞との違いに基づいて、がん細胞の特性を理解する。
- □ がんで最も深刻な転移について、細胞接着や細胞極性の基本的知識を基盤 にして理解する。
- □ 年長者のがんに比較して、その治療や予後が異なる遺伝性・弧発性の小児 がんについて基本知識を習得し、その生物学的特徴を理解する。
- □ 細胞の運命に直結する、細胞死・細胞の寿命、細胞増殖・細胞周期、DNA 損傷修復について、特にがんとの関係を重点に理解する。
- □ 細胞の形質転換に関する定説・新説、ならびに、がん幹細胞や関連するES

細胞・iPS細胞について理解する。

(2) 授業の概要

生命の基本単位である細胞について、正常細胞とがん細胞の違いを重点に解説する。また、細胞の運命(増殖、分化、細胞死、形質転換)に関して、細胞周期、DNA損傷応答・修復も含め、最新の知見にも言及する。

1) 授業計画

4月11日(月)(担当:中釜) がん細胞の特性

4月12日(火)(担当:畑) 細胞接着とがんの転移

4月13日(水)(担当:清水、寺岡)がん細胞と細胞死・細胞の寿命

4月14日(木)(担当:寺岡、水谷)細胞の形質転換機構とがん化の防御(I)

がんの遺伝性と非遺伝性

4月15日(金)(担当:吉岡、高木)細胞の形質転換とがん化の防御(II)

がんと細胞周期

2) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習 特にはないが、細胞について基礎的なことは理解しておくこと。

- (2) 他の授業科目との関連性 がんの分子生物学概論と関連する。
- (3) その他
- 3) 学生への評価方法 出席状況とレポート、あるいは小テストによって評価する。
- 4) 教科書・参考書など 特になし。
- 5) ハンドアウトの有無有り。
- 6) 講義で使用するメディアの種別 PC + プロジェクター

種別:総合基礎

科目名:がんの分子生物学概論

講義場所:東京医科歯科大学

科目担当責任教員:

湯浅保仁 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

分子腫瘍医学分野 教授

(yuasa.monc@tmd.ac.jp)

科目担当教員:渋谷正史 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

分子腫瘍医学分野 客員教授(東京大学名誉教授)

秋山好光 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

分子腫瘍医学分野 講師

深町博史 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

分子腫瘍医学分野 講師

授業予定月日: 平成 23 年 4 月 25 日 ~ 4 月 28 日

- 1) 授業の目標・概要
- (1) 授業の目標
 - *がん遺伝子とがん抑制遺伝子の機能、およびがん発症におけるそれら 遺伝子の異常について理解する。
 - *発がん物質、がん化に関連する感染症、遺伝性がんについて理解する。
 - *がんの分化制御因子と、分化誘導療法について理解する。
 - *がんと血管の関わり、およびがんの血管新生阻害療法について理解する。

(2) 授業の概要

発がんの分子機構の理解に重要ながん遺伝子とがん抑制遺伝子の種類および機能的役割について説明する。さらに、これらの遺伝子のヒトがんにおける異常や検出法、発がん物質・分化・血管新生などとの関連について解説する。また、がんの増殖・悪性化における血管新生の意義、分化誘導療法の有用性についても述べる。

2) 授業計画

4月25日(月)(担当:秋山)がん遺伝子とがん抑制遺伝子

4月26日(火)(担当:湯浅)発がん物質、がん化に関連する感染症、遺伝性がん

4月27日(水)(担当:深町)がんと分化

4月28日(木)(担当:渋谷)がんと血管新生

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習 特になし

(2) 他の授業科目との関連性 がんの分子生物学のトピックスは、発がん過程だけでなく、最新のがん 治療とも関連が深い。

(3) その他

4) 学生への評価方法

出席状況とレポートまたは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

ワインバーグ著、武藤誠他訳「がんの生物学」南江堂 2008 年出版: R.A.Weinberg 著「The biology of cancer」Garland Science, 2007 の日本語訳である。 がん関連遺伝子、がんウイルス、シグナル伝達、細胞増殖、血管新生、転移、がん免疫などがんの基礎的知見についてわかりやすく網羅している好著である。

日本語では、いくつかの雑誌(「実験医学」、「細胞工学」、「蛋白質・核酸・酵素」など)の特集や、その他の総説集は、理解の参考になる。

6) ハンドアウトの有無 有り

7) 講義で使用するメディアの種別

PC + プロジェクター

種別:総合基礎

科目名:がんの病理・病態学概論

講義場所:東京医科歯科大学

科目担当責任教員:江石義信 東京医科歯科大学医歯学総合研究科

人体病理学分野 教授

科目担当教員: 熊谷二朗 東京医科歯科大学保健衛生研究科

分子病態検査学分野 准教授

小林大輔 東京医科歯科大学医歯学総合研究科

人体病理学分野 助教

河内 洋 東京医科歯科大学医歯学総合研究科

人体病理学分野 助教

明石 巧 東京医科歯科大学医歯学総合研究科

病理診断科学分野 准教授

北川昌伸 東京医科歯科大学医歯学総合研究科

包括病理学分野 教授

秋田恵一 東京医科歯科大学医歯学総合研究科

臨床解剖学分野 教授

授業予定月日:平成23年5月9日 ~ 5月13日

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ・ 医療における癌の病理診断(良性と悪性、浸潤や転移)について、その方法と診断までの過程について理解する。
- ・癌の悪性度判断の重要性について、治療法との関連において理解する。
- ・早期癌の診断と治療について、進行癌との対比において理解する。
- ・治療による癌病巣の変化について理解する。
- ・癌の転移経路となるリンパ行路について理解する。
- ・癌の動注療法に用いられる動脈配置について理解する。

(2) 授業の概要

医療における病理診断の実例を題材として、癌の良性悪性、浸潤や転移がどのように観察され、診断されているのかを解説する。また一口に癌と言っても悪性度は様々であり、それによって治療方針なども異なるので、病理の立場か

らその情報が臨床の現場でどのように行かされているのかを解説する。

わが国は癌の早期診断が進歩しており、諸外国に比べ早期癌の診断・治療の 機会が多いので、実例を示しながらその診断と治療について解説する。

化学療法や放射線治療によって癌の病巣はどのように変化するのかについて 解説し、さらに各臓器に発生する癌の姿はどのように異なるかについて、その 発生母地の違いの観点から解説する。

さらに解剖学的観点から、癌治療ならびに癌の転移の理解に必要な、脈管系を中心とした解剖学について解説する。

2) 授業計画

5月9日 (月)(担当:江石、北川)癌の良性悪性診断、癌の浸潤と転移

5月10日(火)(担当:小林、河内)癌の異型度と悪性度、早期癌と進行癌

5月11日(水)(担当:明石、熊谷)癌と治療効果、癌の発生部位と多様性

5月12日 (木) (担当:秋田) 胸腹部ならびに骨盤部の動脈配置

5月13日(金)(担当:秋田) 胸腹部ならびに骨盤部のリンパ系の解剖学

3) 授業に際し学生の留意点

- (1) 授業への準備・予習 解剖学、組織学
- (2) 他の授業科目との関連性 癌の発生や進展の基礎について、細胞生物学総論、分子生物学概論の内 容と関連する。
- 4) 学生への評価方法 出席状況、および授業の最後に行う小テストによって評価する。
- 5) 教科書・参考書など 特になし
- 6) ハンドアウトの有無 特になし
- 7) 講義で使用するメディアの種別 PC+プロジェクター

種 別:総合基礎

科目名:がんのシステム生物学概論

講義場所:東京医科歯科大学

科目担当責任教員:

田中博東京医科歯科大学大学院疾患生命科学研究部教授

科目担当教員:水島 洋 東京医科歯科大学大学院疾患生命科学研究部

オミックス医療情報学講座 寄附講座教授

下川和郎 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

特任講師

小田夏奈江 東京医科歯科大学院疾患生命科学研究部

特任講師

茂櫛 薫 東京医科歯科大学大学院疾患生命科学研究部

特任助教

授業予定月日:平成23年5月16日 ~ 5月20日

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ●システム生物学、オミックス情報学の基本的概念について理解する。
- がんにおけるゲノム異常、遺伝子発現異常などの実例を学ぶ
- がんの遺伝子発現解析について、パスウェイマップ等を用いて解析する手法を学ぶ

(2) 授業の概要

近年の網羅的分子計測法の発展により、ゲノム情報のみならず、トランスクリプトーム・プロテオームなどの各手法において、ハイスループットな解析が可能になった。これらの網羅的分子情報は、オミックス情報と総称される。オミックス情報は、これまでの臨床情報や病理情報、あるいは生活習慣環境情報と関連付けることによって、分子から個体レベルまで総体として疾患のメカニズムを理解できるだけでなく、従来にはない精度で疾

患の経過、重症化、予後を予測できると期待されている。

こうしたシステム生物学、オミックス情報学の基本的概念とがんの診断や治療における個別化、およびがんの予防における有用性について概説する。

2) 授業計画

5月16日(月)(担当:田中) がんのシステム生物学概論

5月17日(火)(担当:水島) がんのオミックス解析とゲノム疫学

5月18日(水)(担当:下川) がんの遺伝子発現データ解析

5月19日(木)(担当:小田) がんのパスウェイマップによる解析

5月20日(金)(担当:茂櫛) がんのシステム解析

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

がんに関する分子生物学的な研究の概要を理解していることが望ましい

(2) 他の授業科目との関連性

他の総合基礎科目ならびに最先端がん治療のトピックスは関連が深く、 是非受講して頂きたい。

(3) その他

これからの時代のがん臨床研究に興味ある学生の聴講を期待する。

4) 学生への評価方法

出席状況とレポートまたは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

授業において紹介する

6) ハンドアウトの有無

有り

7) 講義で使用するメディアの種別

PC+プロジェクター

種 別:総合基礎

科目名:がんの社会医学概論

講義場所:東京医科歯科大学

科目担当責任教員:樋口哲郎 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

腫瘍外科学分野 特任講師

科目担当教員: 河原和夫 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

政策科学分野 教授

小池竜司 東京医科歯科大学医学部附属病院

臨床試験管理センター 准教授

吉田雅幸 東京医科歯科大学大学院

先進倫理医科学開発学分野 教授

冨田 誠 東京医科歯科大学医学部附属病院

臨床試験管理センター 特任准教授

中山健夫 京都大学大学院医学研究科

社会健康医学系専攻健康情報学分野 教授

授業予定月日: 平成 23 年 5 月 23 日 ~ 5 月 27 日

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ① 疫学の基本的考え方・方法論を理解し、臨床・研究・健康政策の検討に活用する基礎を学ぶ。
- ② 医療統計の基礎と臨床研究・治験を行うために必要な統計学を理解する。
- ③ 臨床研究・治験を行う際に理解しておくべき倫理学を学ぶ。
- ④ 地域医療計画、特にがんに関する医療計画を学ぶ。
- ⑤ 治験・臨床試験に関する基本的法規・規制および倫理的指針を理解し、 その計画・実施・評価に関する基本的知識を習得する。

(2) 授業の概要

① 疫学の基本的な考え方である、母集団、バイアス、交絡、比較などを解説し、疫学研究の方法論として記述疫学、観察疫学(コホート研究、症例対照研究)、介入研究などの実例を紹介する。

- ② 臨床研究・治験に必要な医療統計学の理論と実際を講義する。
- ③ 臨床研究・治験を行う際に、留意すべき倫理的問題について解説する。
- ④ 地域医療計画の概要と、がんに関する医療計画の政策策定および実施計画について解説する。
- ⑤ 治験・臨床試験を計画・評価するために必要な知識を解説する。さらに がん治療に関する治験・臨床試験の特徴や問題点、新規試験の計画や実 臨床への応用についても解説する。

2) 授業計画

5月23日(月)担当:河原 がん地域医療計画

5月24日(火)担当:小池 治験と臨床試験

5月25日(水)担当:吉田 倫理

5月26日(木)担当:冨田 統計

5月27日(金)担当:中山 疫学

3) 授業に際し学生の留意点

- (1) 授業への準備・予習 特になし。
- (2) 他の授業科目との関連性 社会医学は臨床研究、Evidence-based medicine (EBM)の基盤であり、 他科目と密接に関係している。
- (3) その他

4) 教科書・参考書など

(以下購入の必要はなし)

- ①中村好一著 基礎から学ぶ楽しい疫学 (医学書院)、青山英康監修 今日 の疫学(第2版)(医学書院)川村孝著 エビデンスをつくる (医学書院)、
- J Last. A Dictionary of Epidemiology (4th ed). (Oxford University Press) (日本疫学会 疫学辞典 第 3 版 日本公衆衛生協会)
- 5) ハンドアウトの有無 スライド資料を当日配布。
- 6) 講義で使用するメディアの種別パワーポイント。

種別: 総合基礎

科目名:がん患者学

講義場所:日本医科大学

科目担当責任教員:高橋秀実 日本医科大学医学部微生物 · 免疫学 教授

日本医科大学附属病院東洋医学科 部長

科目担当教員: 志村俊郎 日本医科大学教育推進室 室長・教授

高柳和江 日本医科大学教育推進室 非常勤講師

授業予定月日:平成23年5月30日 ~ 6月3日

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

がん患者に内在する自然治癒力、自己治癒力を高めるための方策を理解する。 そのための体内免疫システムの概要、その活性化を目的とした補完代替医療 として東洋医学の基礎を理解する。

(2) 授業の概要

がん患者に内在する免疫システム、特に自然免疫システムと獲得免疫システムとの概要を教示するとともに、自然治癒力の基礎について解説する。また、こうした力を高めるための癒しの環境および補完代替医療としての東洋医学の原理・原則を概説する。

2) 授業計画

5月31日(月) 高橋秀実 免疫システムと自然治癒力

5月31日(火) 高橋秀実 東洋医学の実体

6月1日(水) 志村俊郎 インフォームド・コンセント

6月2日(木) 高柳和江 内なる治癒力

6月3日(金) 高柳和江 癒しの環境

- 3) 授業に際し学生の留意点
 - (1) 授業への準備・予習 特になし
 - (2) 他の授業科目との関連性 がん患者さんに対する緩和ケアを実践するためにも、がん患者学演習は 是非学んで欲しい。
 - (3) その他
- 4) 学生への評価方法 出席、レポート、授業態度
- 5) 教科書・参考書など

新・現代免疫物語「抗体医薬」と「自然免疫」の驚異(ブルーバックス) リピンコット免疫学(丸善出版) かしこくなる患者学(放送教育出版会) 患者による医療(放送教育出版会) 生きる歓び☆アゲイン(医歯薬出版) ペイシャンツ・アイズ(日経BP) 医療の質(日本評論社) 代替療法の医学的証拠(泉書房) 内なる治癒力(創元社) 人間医療学(南山堂) ブラック微生物学(丸善出版)

- 6) ハンドアウトの有無 あり
- 7) 講義で使用するメディアの種別 PC+プロジェクター ハンドマイク

種別: 総合基礎

科目名:がん患者学演習

講義場所:日本医科大学

科目担当責任教員: 高橋秀実 日本医科大学医学部微生物·免疫学 教授

日本医科大学附属病院東洋医学科 部長

科目担当教員:吉村明修 日本医科大学教育推進室 准教授

高柳和江 日本医科大学教育推進室 非常勤講師

授業予定月日:平成23年6月6日 ~ 6月10日

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

がん患者の内なる治癒力を高めるためのコミュニケーション学および、補完 代替医療としての東洋医学、ことに鍼灸治療ならびに生薬を用いた湯液治療 の実際を理解する。

(2) 授業の概要

がん患者に内在する自己治癒力を高めるため、模擬患者を加えたコミュニケーション実習を行なう。また、告知、サポート、再発の告知等に際した伝達手法を理解する。そのためにビデオ学習も取り入れ、がん患者サポート体制の実際を理解するとともに、補完代替医療としての東洋医学で用いる鍼灸治療ならびに生薬を用いた湯液治療を実習する。

2) 授業計画

6月6日(月) 高橋秀実 鍼灸治療演習

7日(火) 吉村明修 SP を交えた患者実習

8日(水) 高橋秀実 湯液治療演習

9日(木) 高柳和江 医師一患者関係(1)

10日(金) 高柳和江 医師一患者関係(2)

- 3)授業に際し学生の留意点
 - (1) 授業への準備・予習 特になし
 - (2) 他の授業科目との関連性がん患者学
 - (3) その他
- 4) 学生への評価方法 出席、レポート、授業態度
- 5) 教科書・参考書など 中医処方解説(医歯薬出版) 漢薬の臨床応用(医歯薬出版) 針灸経穴辞典(東洋学術出版) がん医療におけるコミュニケーション・スキル 悪い知らせをどう伝えるか(医学書院) 死に方のコツ(小学館文庫) 事例で学ぶ医療コミュニケーション・スキル(西村書店) メディカル・インタビュー(メディカル・サイエンス・インターナショナル)
- 6)ハンドアウトの有無 あり
- 7) 講義で使用するメディアの種別 PC+プロジェクター ハンドマイク

種別:総合発展

科目名:がんの放射線診療

講義場所:東京医科歯科大学

科目担当責任教員:

渋谷 均 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

腫瘍放射線医学分野 教授

科目担当教員:星 章彦 武蔵野日赤病院放射線科 部長

唐澤克之 東京都立駒込病院放射線診療科 部長

小口正彦 癌研究会有明病院放射線治療科 部長

伊藤芳紀 国立がんセンター中央病院放射線治療科 医員

吉村亮一 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

腫瘍放射線医学分野 助教

林 敬二 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

腫瘍放射線医学分野 特任助教

授業予定月日: 平成 23 年 10 月 31 日 ~ 11 月 4 日

- 1) 授業の目標・概要
- (1) 授業の目標

脳腫瘍、泌尿器がん、乳がん、肺がん、婦人科がん、食道がんの放射線診療 および定位放射線治療について理解する。

(2) 授業の概要

脳腫瘍、泌尿器がん、乳がん、肺がん、婦人科がん、食道がんの放射線診療および定位放射線治療について概説する。さらに化学療法を組み合わせた化学放射線療法について説明し、それらの適応、有用性についても講述する。また、最近のトピックスについても言及する。

2) 授業計画

10月31日(1時限担当:星) 定位放射線治療

(2時限担当:吉村) 婦人科がんの放射線診療

11月1日(1時限担当: 唐澤) 脳腫瘍の放射線診療

(2時限担当:林) 泌尿器がんの放射線診療

11月2 日(1時限担当:小口) 乳がんの放射線診療

11月4 日(1時限担当:伊藤) 食道がんの放射線診療

(2時限担当:渋谷) 肺がんの放射線診療

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習 特になし

(2) 他の授業科目との関連性 臓器別がんの診療は関連が深く、是非受講して頂きたい。

(3) その他

4) 学生への評価方法

出席状況とレポートまたは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など 特になし

6) ハンドアウトの有無 有り

7) 講義で使用するメディアの種別

PC + プロジェクター

種別:総合発展

科目名:頭頸部がんの診療

講義場所:東京医科歯科大学

科目担当責任教員:岸本誠司 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

頭頸部外科学分野 教授

科目担当教員: 杉本太郎 東京医科歯科大学医学部附属病院

耳鼻咽喉科学分野 講師

佃 守 横浜市立大学医学部

耳鼻咽喉科 · 頭頸部外科 教授

川端一嘉 癌研究会附属有明病院 頭頸科 部長

渋谷 均 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

腫瘍放射線医学分野 教授

谷口 尚 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

顎顔面補綴学分野 教授

小村 健 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

顎口腔外科学分野 教授

授業予定月日: 平成 23 年 11 月 7 日 ~ 11 月 10 日

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- 頭頸部がんにおける TNM 病期分類、病期の決定法、各病期の標準的治療、 および合併症の管理について理解する。
- 頭頸部がんにおける放射線診断、核医学診断の適応について理解する。
- ■頭頸部がんにおける集学的治療の重要性について理解する。
- 機能や形態を考慮した頭頸部がん治療法について理解する。

(2) 授業の概要

頭頸部領域がん(聴器、鼻副鼻腔、口腔、顔面、上中下咽頭、喉頭、頸部食道、 頸部など)における、機能や形態を考慮した外科的療法、さらに放射線療法や 化学療法を組み合わせた集学的治療について解説する。また、口腔、中咽頭が んに対する低線量率小線源治療の有用性と臨床の実際について講述し、その際 に利用される補綴装置の意義や術後のエピテーゼについても言及する。

2) 授業計画

- 11月7日(月)(担当:杉本、川端) 頭頸部がん概論、頭頸部がんの外科的治療法
- 11月8日 (火) (担当: 岸本、佃) 頭蓋底・顔面深部の外科、頭頸部がんの化学療法
- 11月9日 (水) (担当:渋谷、未定) 口腔、中咽頭がんの小線源治療、口腔がんおよび前がん病変
- 11月10日(木)(担当:谷口、小村) 頭頸部がん治療におけるエピテーゼの役割 口腔がんの集学的治療
- 3) 授業に際し学生の留意点
 - (1) 授業への準備・予習 特になし
 - (2) 他の授業科目との関連性 最先端がん治療のトピックスは関連が深く、是非受講して頂きたい。
 - (3) その他
- 4) 学生への評価方法 出席状況とレポートまたは小テストによって評価する。
- 5) 教科書・参考書など 特になし
- 6) ハンドアウトの有無 有り
- 7) 講義で使用するメディアの種別PC + プロジェクター

種別:総合発展

科目名:臓器別がんの診療

講義場所:東京医科歯科大学

科目担当責任教員:

第1回臓器別がんの診療:三浦 修 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

血液内科学分野 教授

第2回臓器別がんの診療:有井滋樹 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

肝胆膵·総合外科学分野 教授

第3回臓器別がんの診療:久保田俊郎 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

生殖機能協関学 教授

第4回臓器別がんの診療:原田浩之 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

顎口腔外科学分野 准教授

第5回臓器別がんの診療:大久保憲一 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

呼吸器外科学分野 教授

授業予定月日:

第1回 平成23年11月14日(月)

第2回 平成23年11月18日(金)

第3回 平成23年11月21日(月)

第4回 平成23年11月25日(金)

第5回 平成23年12月2日(金)

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

臓器別のがんに対する標準的治療法ならびに集学的治療法の原理と実際について 理解する。

(2) 授業の概要

臓器別のがんのそれぞれの分類、病態、診断法について概説する。外科的療法、化学療法、さらにそれらを組み合わせた集学的治療について説明し、それらの適応、目標、有用性についても述べる。また、最近の臨床研究やトピックスも交えて解説する。

2) 授業計画

開始時間 17:00、講義時間 45 分

□	日程	17:00-17:45(45 分)	17:50-18:35(45 分)	18:40-19:25(45 分)	19:30-20:15(45 分)
1	11月14日	脳腫瘍の診療 青栁傑	小児がんの診療 梶原道子	白血病・悪性リンパ 腫の診療 新井文子	
2	11月18日	食道がんの診療 中島康晃	肝胆膵がんの診療 有井滋樹	胃がんの診療 井ノ口幹人	大腸がんの診療 植竹宏之
3	11月21日	泌尿器がんの診療 古賀文隆	婦人科がんの診療 尾崎喜一(駒込病院)	乳がんの診療 佐藤隆宣	
4	11月25日	口腔がんの診療 原田浩之	骨軟部腫瘍 澤村千草	皮膚がんの診療 西澤綾	
5	12月2日	肺がんの外科治療 大久保憲一	肺がんの内視鏡治療 /インターベンション 池田徳彦(東京医大)	肺がんの化学療法 坂下博之	肺がんの放射線治療 唐澤克之(駒込病院)

3) 授業に際し学生の留意点

- (1) 授業への準備・予習 特になし
- (2)他の授業科目との関連性抗がん剤薬理学 I・Ⅱは関連が深く是非受講して頂きたい。
- 4) 学生への評価方法 レポートによって評価する。
- 5) 教科書・参考書など 特になし
- 6) ハンドアウトの有無特になし
- 7) 講義で使用するメディアの種別 PC + プロジェクター

種別:放射線基礎・放射線応用

授業開催場所:東京工業大学町田キャンパス(CIC)

科目名:1. 放射線物理学·放射線技術学特論

2. 腫瘍放射線生物学特論(医用放射線生物学)

3. 腫瘍放射線診断学・核医学特論(医用放射線診断学・核医学)

4. 腫瘍放射線治療学特論(放射線治療学)

科目担当責任教員: 1,2.三浦雅彦 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

口腔放射線腫瘍学分野 教授

3. 大橋 勇 東京医科歯科大学医学部附属病院放射線部 准教授

4. 渋谷 均 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

腫瘍放射線医学分野 教授

科目担当教員:授業計画参照

授業予定月日:

- 1. 平成23年9月12日(月)~16日(金)
- 2. 平成23年9月26日(月)~30日(金)
- 3. 平成23年10月3日(月)~7日(金)
- 4. 平成23年10月11日(火)~14日(金)

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

腫瘍に対する放射線物理、放射線生物学の基本的知識を習得し、臨床応用の実際を理解する。

(2) 授業の概要

- 1. 技術としての放射線分野の基礎および応用について解説する。また、臨床における放射線防護についても解説する。
- 2. 放射線が生物に対して与える影響について、分子レベル、細胞レベル、個体レベル、および集団レベルで論じる。また、病態・疾患との関連について講じる。
- 3. 放射線科領域における磁気・超音波を含めた診断技法の原理および概要を講じるとともに、それぞれの適応と臨床応用の実際についても論じる。

4. 医療における放射線治療の意義とその応用範囲、線量測定・治療計画の方法論、他の治療法との関連および副作用・安全管理について論じる。

2) 授業計画

講義時間 18:45~20:45

4) F A	科目 担当教員及び分担詳細科目								
科目名	責任者	1 日目	2日目	3 日目	4日目	5 日目			
放射線物理学・放射線技術学特論	三浦雅彦	9月12日	9月13日	9月14日	9月15日	9月16日			
放	二佣個多	阿部慎司	阿部慎司	阿部慎司	保科正夫	保科正夫			
腫瘍放射線生物学特論	→ >+==	9月26日	9月27日	9月28日	9月29日	9月30日			
(医用放射線生物学)	三浦雅彦	三浦雅彦	三浦雅彦	三浦雅彦	渡邊 裕	三浦雅彦			
腫瘍放射線診断学·核医学特論	大橋 勇	10月3日	10月4日	10月5日	10月6日	10月7日			
(医用放射線診断学・核医学)	八個男	大橋 勇	大橋 勇	大橋 勇	大橋 勇	久保田一徳			
腫瘍放射線治療学特論	211-722 TF	祝日	10月11日	10月12日	10月13日	10月14日			
(放射線治療学)	渋谷 均		渋谷 均	渋谷 均	渋谷 均	渋谷 均			

- 3) 授業に際し学生の留意点
 - (1) 授業への準備・予習 特になし
 - (2) 他の授業科目との関連性 「がんの放射線診療」は関連が深く是非受講して頂きたい。
- 4) 学生への評価方法 試験によって評価する。
- 5) 教科書・参考書など 特になし
- 6) ハンドアウトの有無特になし
- 7) 講義で使用するメディアの種別 PC + プロジェクター

種別:化学療法

科目名:抗がん剤薬理学概論 I ·抗がん剤薬理学概論 II

講義場所:東京医科歯科大学

科目担当責任教員:安原眞人 東京医科歯科大学医学部附属病院

薬剤部 教授 (yasuhara.mpha@tmd.ac.jp)

科目担当教員: 谷川原祐介 慶應義塾大学医学部臨床薬剤学 教授

岡田弘晃 東京薬科大学 名誉教授

玉井郁巳 金沢大学医薬保健学域薬学類·創薬科学類

薬物動態学 教授

三木義男東京医科歯科大学難治疾患研究所

分子遺伝学分野 教授

大杉義征 中外製薬株式会社 オンコロジー学術情報部

リサーチアドバイザー

林 良雄 東京薬科大学薬学部薬品化学 教授

小竹良彦 エーザイ株式会社 オンコロジーPCU

主幹研究員

授業予定月日: I 平成 23 年 10 月 17 日 ~ 10 月 21 日

: Ⅱ 平成 23 年 10 月 24 日 ~ 10 月 28 日

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ・ 作用メカニズムに基づく抗がん剤の分類を理解し、抗体医薬や分子標的薬 の具体例を学び、合理的な化学療法の設計法について考察する。
- 抗がん剤の体内動態や作用に関わるトランスポーターについて学び、抗が ん剤の臨床薬理を理解する。
- 抗がん剤治療の最適化を目指したドラッグデリバリーシステムの概念と 具体例を学ぶ。
- ・ 抗がん剤に対する感受性や副作用の有無を患者個別に予測するためのゲ ノム情報の活用につき学ぶ。
- ・ 新規抗がん剤の創製に向けたメディシナルケミストリーのアプローチを 学ぶ。

(2) 授業の概要

アルキル化剤から分子標的治療薬まで、多様な抗がん剤の作用メカニズムを

概観し、ヒト化抗体医薬や分子標的薬の開発と臨床応用の具体例を紹介する。 抗がん剤の吸収・分布・代謝・排泄や腫瘍組織への移行過程における薬物トラ ンスポーターの関わりやその変動因子について考察する。有効性と安全性とい う観点から、PK/PD に基づく合理的な抗がん剤の投与設計や具体的な抗がん剤 の調製における注意点につき講述する。抗がん剤の選択的な腫瘍組織への送達 や薬物濃度の制御を可能とするドラッグデリバリーシステムの進歩について解 説する。さらに、個々のがん患者に対して最適な化学療法を提供する、いわゆ るテーラーメイド医療の実現に向けた、ファーマコゲノミックスの取り組みに ついて講述する。新規抗がん剤の創製に向けて、抗体医薬やメディシナルケミ ストリーのアプローチを紹介する。

2) 授業計画

10月17日(月)(安原) 抗がん剤薬理学概説

10月18日(火)(谷川原)抗がん剤の臨床薬理学

10月20日(木)(岡田) 抗がん剤のドラッグデリバリーシステム

10月21日(金)(玉井) 抗がん剤とトランスポーター

10月24日(月)(三木) 抗がん剤のファーマコゲノミックス

10月25日(火)(大杉) ヒト化抗体医薬(IL-6 受容体抗体を中心に)

10月27日(木) (林) チューブリンを標的とする抗がん剤の創製

10月28日(金)(小竹) 分子標的薬の開発

3) 授業に際し学生の留意点

- (1) 授業への準備・予習 特になし
- (2) 他の授業科目との関連性
- (3) その他
- 4) 学生への評価方法 出席状況とレポートまたは小テストによって評価する。
- 5) 教科書・参考書など 特になし
- 6) ハンドアウトの有無 有り
- 7) 講義で使用するメディアの種別PC + プロジェクター

がんプロシラバス

種別:緩和基礎

科目名:緩和医療学概論

講義場所:東京医科歯科大学

科目担当責任教員:松島英介 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

心療・緩和医療学分野 准教授

(em.lppm@tmd.ac.jp)

荻原隆二 医療法人社団天紀会 理事長

科目担当教員: 松下年子 埼玉医科大学保健医療学部看護学科 教授

冨田 伸 聖隷佐倉市民病院脳神経外科 部長

鈴木荘一 鈴木内科医院 院長

小池眞規子 白大学人間学部心理カウンセリング学科 教授

授業予定日 平成23年6月13日(月)~6月17日(金)

1) 授業の目標・概要

(1)授業の目標

わが国の緩和医療は当初、治癒を目的とした医療に対して反応しなくなった、主にがん患者に行われる疼痛緩和を中心としたいわばみとりの医療であったが、その後、治療の早期からも適応されるようになり対象が広がった。今後実施される多方面からアプローチする講義の理解を深める準備として全体像を概観する。また、患者の全体像を評価する QOL についての知識と、こうした患者やその家族に接する際のコミュニケーション・スキルについて習得できるようにすることも目標である。

(2)授業の概要

緩和医療について、その理念、目的、意義、および実態について概観する。また、ホスピスや緩和ケア病棟での緩和ケア、在宅での緩和ケアについて、実際の臨床現場に即して解説する。さらに、緩和医療の際の最も基本である、全人的な痛みを評価するための QOL 尺度の説明や応用、および患者やその家族とのコミュニケーションについて、実例をまじえて講義を行う。

2) 授業計画

6月13日(月) (担当:荻原) 緩和医療学入門

6月14日(火) (担当:冨田) ホスピス・緩和ケア病棟での緩和ケア

6月15日(水) (担当:松下)緩和ケアにおける QOL の評価

6月16日(木) (担当:小池)緩和ケアにおけるコミュニケーション

6月17日(金) (担当:鈴木) 在宅緩和ケア

- 3) 授業に際し学生の留意点
 - (1) 授業への準備・予習 特になし。
 - (2)他の授業との関連性 精神腫瘍学特論との関連性が深いので是非受講して頂きたい。
 - (3) その他 すぐに実践できる知識を身につけることを目指している。
- 4) 学生への評価方法 出席状況、レポートまたは小テストによって評価する
- 5) 教科書・参考書など

Oxford Textbook Of Palliative Medicine (Fourth Edition): Geoffrey WC Hanks, Nathan I. Cherny, ほか編 2010

在宅医療・介護基本手技マニュアル改訂第2版 谷亀光則編 永井書店 2005 在宅での看取りと緩和ケア 佐藤 智、鈴木荘一、村松静子編 中央法規 2008 臨床のための QOL 評価ハンドブック 池上直己ほか編 医学書院 2001 臨床面接技法-患者との出会いの技

Billings JA, Stoeckle JD 日野原重明ほか訳 医学書院 2001 メディカル・インタビュー マニュアルー医師の本領を生かすコミュニケー ション技法 福井次矢 インターメディカ (第3版) 2002 患者と医師のコミュニケーション

Debra L, Hall R, Hall JA 石川ひろの他訳 篠原出版新社 2007 がん医療におけるコミュニケーション・スキルー悪い知らせをどう伝えるか 内富庸介 藤森麻衣子 医学書院 2007

SPIKES-BC 乳がん診療におけるコミュニケーション・スキルを学ぶ Team SPIKES-BC (編纂) 時報 2007 Buckman R 恒藤暁ほか訳 診断と治療社 2000

- 6) ハンドアウトの有無 できるだけ用意する。
- 7) 講義で使用するメディアの種別 PC+プロジェクター

がんプロシラバス

種別:緩和基礎

科目名:精神腫瘍学特論

講義場所:東京医科歯科大学

科目担当責任教員:

松島英介 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

心療·緩和医療学分野 准教授(em.lppm@tmd.ac.jp)

科目担当教員:清水 研 国立がん研究センター中央病院

(講義順) 緩和医療科・精神腫瘍科 副科長

野口 海 メンタル・コンシェルジュ 代表

慶應義塾大学大学院政策メディア研究科 准教授

大西秀樹 埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科 教授

織田健司 東京海上日動メディカルサービス株式会社 医師

授業予定月日:平成23年6月20日(月) ~ 6月24日(金)

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

がん患者やその家族のこころに目を向け、身体的側面だけではなく精神的側面についても把握できるようにする。そのためには、がん患者の誰もが抱えるストレスから、治療が必要な精神症状まで、幅広く理解しておくことが必要である。これらをもとに、個々のがん患者に対する対応および、精神症状に対する診断や治療ができるようにする。また、患者家族や遺族の精神状態の把握や心理的介入、治療ができるようにする。

(2) 授業の概要

精神腫瘍学の意義に始まり、がん患者のストレス、コーピング・スタイル、精神症状でもよく認められる不安・抑うつの診断と治療、絶望感や自殺の問題とその対応、せん妄の診断とその対策、がん患者の家族に対する理解や対応、遺族のケア、終末期の患者のスピリチュアリティや尊厳の問題など、症例を上げながら解説し、患者を包括的、全人的に診療していく姿勢を身につけていただく。

2) 授業計画

6月20日(月)(担当:松島) 精神腫瘍学入門

6月21日(火)(担当:清水) 抑うつ・不安および自殺とその対応

6月22日(水)(担当:野口) 終末期の精神医学的問題

6月23日(木)(担当:大西) 家族と遺族のケア 6月24日(金)(担当:織田) せん妄とその対策

- 3) 授業に際し学生の留意点
 - (1) 授業への準備・予習 特になし
 - (2) 他の授業科目との関連性 前の週に開講される「緩和医療概論」は関連が深いため、是非受講していた だきたい。
 - (3) その他 活発な質疑を期待しているので、積極的な姿勢で受講していただきたい。
- 4) 学生への評価方法 出席状況とレポートまたは小テストによって評価する。
- 5) 教科書・参考書など

日本サイコオンコロジー学会ホームページにある E-ラーニング (http://www.jpos-society.org/elearning/)

明智龍男著:がんとこころのケア. NHK ブックス 975, 2003 年 内富庸介監訳:緩和医療における精神医学ハンドブック. 星和書店, 東京, 2001 年 Handbook of Psychooncology (ed Holland JC, Rowland JH), Oxford University Press, New York, 1990. (河野博臣, 濃沼信夫, 神代尚芳監訳: サイコオンコロジー第1版. メディアサイエンス社, 東京, 1993 年)

Psycho-Oncology (ed Holland JC), Oxford University Press, New York, 1998. 大西秀樹著:がん患者の心を救う. 河出書房新社, 2008 年

日本サイコオンコロジー学会教育委員会監修:緩和ケアチームのための精神腫瘍学入門. 医薬ジャーナル社,2009年

松島英介編著: がん患者のこころ (現代のエスプリ 517). ぎょうせい, 2010 年 大西秀樹編著: サイコオンコロジー (専門医のための精神科臨床リュミエ ール 24). 中山書店, 2010 年

清水 研編著: がん医療に携わるすべての医師のための心のケアガイド 真興交易(株)医書出版部,2011年

岡村 仁著:がんで不安なあなたへ.メディカルトリビューン,2011年

- 6) ハンドアウトの有無 できるだけ用意する。
- 7) 講義で使用するメディアの種別 PC+プロジェクター

がんプロシラバス

種 別:緩和基礎

科目名:緩和医療における身体症状論

講義場所:東京医科歯科大学

科目担当責任教員:

松島英介東京医科歯科大学大学院医師学総合研究科

心療・緩和医療学分野 准教授

(em.lppm@tmd.ac.jp)

山田陽介東京都保健医療公社豊島病院

緩和ケア内科 医長

(yosuke-y@toshima-hp.jp)

科目担当教員:的場元弘 国立がんセンター中央病院緩和医療科 医長

吉澤明孝 要町病院 副院長

要町ホームケアクリニック 院長

樋口比登実 昭和大学病院緩和医療科 准教授

小澤竹俊 めぐみ在宅クリニック 院長

授業予定日 平成23年6月27日(月) ~ 7月1日(金)

1) 授業の目標・概要

(1)授業の目標

がん患者に関わる医療者にとって、疼痛を初めとする様々な身体症状についての知識の習得は最も基本的なものであると同時に必須である。がん患者の訴える多彩な症状について幅広く理解し、適切な原因診断、治療ができるようにすることが目標である。

(2)授業の概要

身体症状に対する緩和治療の意義、がん性疼痛、呼吸困難、倦怠感、 浮腫等々多彩ながんに伴う症状の特徴とその対応を解説。さらに外来、 一般病棟(緩和ケアチーム)、緩和ケア病棟、在宅医療の現場におけ る身体症状への対応について具体的な事例を提示しながら解説し、疾 患の全経過に関与する緩和医療のありかたについて理解を深められ るよう講義を行う。さらにすべての診療の基盤となる患者への援助的 コミュニケーションについても講義を行う。

2) 授業計画

6月27日(月)(担当:的場)

がん専門病院における緩和医療・身体症状へのアプローチ

6月28日(火)(担当:吉澤)

宅医療における身体症状へのアプローチ

6月29日(水)(担当:樋口)

大学病院における緩和ケアチームによる身体症状へのアプローチ

6月30日(木)(担当:山田)

緩和ケア病棟における身体症状へのアプローチ

7月1日(金)(担当:小澤)

がん患者への援助的コミュニケーション

- 3) 授業に際し学生の留意点
 - (1) 授業への準備・予習 特になし。
 - (2)他の授業との関連性 緩和医療概論、精神腫瘍学特論との関連性が深いので是非受講して頂 きたい。
 - (3) その他 すぐに実践できる知識を身につけることを目指している。
- 4) 学生への評価方法 出席状況、レポートまたは小テストによって評価する。
- 5) 教科書・参考書など

Oxford Textbook Of Palliative Medicine 4th edition (Oxford Textbook): Geoffrey Hanks, 2009

Symptom Management in Advanced Cancer: Robert G. Twycross, Andrew Wilcock 2009 (武田文和訳 トワイクロス先生のがん患者の症状マネジメント 第 2 版 医学書院 2010 年)

がんの痛みからの解放—WHO 方式がん疼痛治療法 世界保健機関/編 武田 文和/訳 金原出版 1996 年

- のンドアウトの有無できるだけ用意する。
- 7) 講義で使用するメディアの種別 PC+プロジェクター

がんプロシラバス

種 別:緩和応用

科目名:疼痛マネジメント(基本編)

講義場所:東京医科歯科大学

科目担当責任教員:松島英介 東京医科歯科大学大学院医師学総合研究科

心療·緩和医療学分野 准教授

(em.lppm@tmd.ac.jp)

山田陽介 東京都保健医療公社豊島病院緩和ケア科 医長

(yosuke-y@toshima-hp.jp)

科目担当教員: 下山直人 栃木県立がんセンター麻酔科手術部長

高野利実 虎の門病院臨床腫瘍科 部長

田中桂子 東京都立駒込病院 緩和ケア科 医長 堀 夏樹 NTT東日本関東病院緩和ケア科 部長

山口武兼 東京都保健医療公社豊島病院 院長

授業予定日 平成23年7月4日(月) ~ 7月8日(金)

1) 授業の目標・概要

(1)授業の目標

がん患者に関わる医療者にとって、疼痛を初めとする様々な身体症状についての知識の習得は最も基本的なものであると同時に必須である。がん患者の訴える多彩な症状について幅広く理解し、適切な原因診断、治療ができるようにすることが目標である。

(2)授業の概要

体性痛、内臓痛、神経因性疼痛などの疼痛についての概論にはじまり、 各種がんに伴う疼痛・身体症状の実際とその対応を解説。疼痛を初め とする症状コントロールの実践的な基本知識を習得する。

2) 授業計画

7月4日(月)(担当:下山)「疼痛概論(がんの痛みの機序と分類、

それに基づく治療の基本)」

7月5日(火)(担当:高野)乳癌の緩和医療

7月6日(水)(担当:田中)がん患者の呼吸器症状

7月7日(木)(担当:堀) がん患者の泌尿器症状

7月8日(金)(担当:山口)転移性脳腫瘍の緩和医療

3) 授業に際し学生の留意点

- (1) 授業への準備・予習 特になし。
- (2)他の授業との関連性 緩和医療における身体症状論との関連性が深いので是非受講して頂きたい。
- (3) その他 すぐに実践できる知識を身につけることを目指している。
- 4) 学生への評価方法 出席状況、レポートまたは小テストによって評価する。
- 5) 教科書・参考書など

Oxford Textbook Of Palliative Medicine 4th edition (Oxford Textbook): Geoffrey Hanks, 2009

Symptom Management in Advanced Cancer: Robert G. Twycross, Andrew Wilcock 2009 (武田文和訳 トワイクロス先生のがん患者の症状マネジメント 医学書院 2010年)

がんの痛みからの解放—WHO 方式がん疼痛治療法 世界保健機関/編 武田 文和/訳 金原出版 1996 年

日本ホスピス緩和ケア研究財団のホームページにある E-ラーニング (http://www.hospat.org/)

- 6) ハンドアウトの有無 できるだけ用意する。
- 7) 講義で使用するメディアの種別 PC+プロジェクター

がんプロシラバス

種 別:緩和応用

科目名:疼痛マネジメント(応用編)

講義場所:東京医科歯科大学

科目担当責任教員:松島英介 東京医科歯科大学大学院医師学総合研究科

心療·緩和医療学分野 准教授

(em.lppm@tmd.ac.jp)

山田陽介 東京都保健医療公社豊島病院緩和ケア科 医長

(yosuke-y@toshima-hp.jp)

科目担当教員: 三枝好幸 聖ヶ丘病院 ホスピス長

林 章敏 聖路加国際病院緩和ケア科 医長

小澤美和 聖路加国際病院小児科 医長

行田泰明 要町病院緩和ケア部 部長兼麻酔科部長 永井英明 国立病院機構東京病院 外来診療部長

授業予定日 平成 23 年 7 月 11 日(月) ~ 15 日(金)

1) 授業の目標・概要

(1)授業の目標

がん患者に関わる医療者にとって、疼痛を初めとする様々な身体症状についての知識の習得は最も基本的なものであると同時に必須である。がん患者の訴える多彩な症状について幅広く理解し、適切な原因診断、治療ができるようにすることが目標である。

(2)授業の概要

一般病棟、在宅医療における疼痛緩和の実際についての解説に始まり、 鎮静、臨死期の身体症状をはじめとする諸問題に対して、事例紹介を 交えながらより実践的な知識を習得することを目指す。さらに小児を 対象とした緩和医療、AIDS 患者を対象とした緩和医療についても講 義を行う。

2) 授業計画

7月11日(月)(担当:三枝) がん患者の消化器症状

7月12日(火)(担当:林) 鎮静・臨死期の諸問題

7月13日(水)(担当:小澤) 小児の緩和医療

7月14日(木)(担当:行田) 在宅における疼痛緩和の実際

7月15日(金)(担当:永井) AIDS 患者の緩和医療

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習 特になし。

(2) 他の授業との関連性

緩和医療における身体症状、疼痛マネジメント(基本編)との関連性が深いので是非受講して頂きたい。

(3) その他

すぐに実践できる知識を身につけることを目指している。

4) 学生への評価方法

出席状況、レポートまたは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

Oxford Textbook Of Palliative Medicine 4th edition (Oxford Textbook): Geoffrey Hanks, 2009

Symptom Management in Advanced Cancer: Robert G. Twycross, Andrew Wilcock 2009 (武田文和訳 トワイクロス先生のがん患者の症状マネジメント 医学書院 2010年)

がんの痛みからの解放—WHO 方式がん疼痛治療法 世界保健機関/編 武田 文和/訳 金原出版 1996 年

日本ホスピス緩和ケア研究財団のホームページにある E-ラーニング

(http://www.hospat.org/)

- 6) ハンドアウトの有無 できるだけ用意する。
- 7) 講義で使用するメディアの種別 PC+プロジェクター

がんプロシラバス

種 別:緩和応用

科目名:緩和医療におけるリエゾン精神医学特論

講義場所:日本医科大学

科目担当責任教員:

大久保善朗 日本医科大学大学院医学研究科精神・行動医学 教授 (okubo-y@nms.ac.jp)

科目担当教員:

岸泰 宏 日本医科大学武蔵小杉病院精神科 准教授

伊藤隆雄 日本医科大学付属病院精神神経科 講師

上田 諭 日本医科大学付属病院精神神経科 病院講師

肥田道彦 日本医科大学付属病院精神神経科 助教

授業予定月日: 平成 23 年 7 月 19 日(火) ~ 22 日(金)

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

精神科以外の身体科に入院中の患者を身体科と精神科が連携して医療にあたるコンサルテーション・リエゾン精神医学を理解する。

(2) 授業の概要

がんの治療のために身体科に入院した患者が、うつ病やせん妄などの精神 症状を呈することがしばしばあり、コンサルテーション・リエゾン精神医学 のニーズは高い。本特論では、コンサルテーション・リエゾン精神医学の実 践について、講義、クリニカルカンファレンス形式の症例検討等の聴講を通 じて理解を深める。

2) 授業計画

7月19日(火) 担当:上田

高齢者におけるコンサルテーション・リエゾン精神医学

7月20日(水) 担当:岸

総合病院におけるコンサルテーション・リエゾン精神医学

7月21日(木) 担当:伊藤

緩和医療とコンサルテーション・リエゾン精神医学

7月22日(金) 担当:肥田、大久保 症例から学ぶ

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習 特になし

- (2) 他の授業科目との関連性
 - 6 月に開講される「精神腫瘍学特論」は関連が深いため、是非受講していただきたい。
- (3) その他

活発な質疑を期待しているので、積極的な姿勢で受講していただきたい。

4) 学生への評価方法

出席状況とレポートまたは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

日本サイコオンコロジー学会ホームページにある E-ラーニング (http://www.jpos-society.org/elearning/)

- 6) ハンドアウトの有無 できるだけ用意する。
- 7) 講義で使用するメディアの種別

PC+プロジェクター

がん看護専門看護師養成コース

看護学研究法特論 (看護学共通科目)

2単位(前期 月曜日 Ⅲ·IV時限)

山本則子(本学高齢者看護・ケアシステム開発学 教 授) 大久保功子(本学リプロダクティブへルス看護学 教 授) 森田久美子(本 学 健 康 教 育 学 准教授) 深堀浩樹(本学看護システムマネジメント学 准教授) 操 華子(国際医療福祉大学大学院 教 授) 武藤かおり(東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター 公共政策研究分野 准教授)

五八战术师儿刀五 (正教汉)

望月由紀(千葉大学看護学部特任准教授)

1. 教育方針

看護研究のプロセスと看護学研究法を学び、看護活動の質向上や看護技術の開発に必要な基礎的研究能力を修得する。

2. 教育目標

- 1) 看護活動の目的、動向、課題を研究的な視点から理解する。
- 2) 看護研究の特徴と種類を学び、研究を展開するための基本的なプロセスを理解する。
- 3) 研究における倫理的配慮のあり方について理解する。
- 4) 代表的な研究方法の実際について、具体例を通じて理解する。
- 5) 看護学の原著論文のクリティークを通し、研究課題を具体化し、看護活動への研究的アプローチ方法を理解する。

3. 教育内容

別表のとおり

4. 教育の進め方、運営、評価

講義と学生が主体的に運営するゼミ形式によって行う。ゼミは指定したテーマに関連する図書を素材として、自己 学習とグループ学習の成果発表と全体討議により運営する。

評価はプレゼンテーションや資料、授業の参加状況によって行う。

平成 23 年度 看護学研究法 日程

口	月日	内 容	担当
1.	4月11日	ガイダンス	山本 則子
2.	4月11日	研究における倫理	武藤かおり
3.	4月25日	看護学における知識の基盤(1)	望月 由紀
4.	4月20日	文献クリティーク(1)	操 華子
5.	5月9日	 疫学的研究(量的調査)	森田久美子
6.	одуц	发子的师九(里的师卫)	林田八天丁
7.	5月23日	看護学における知識の基盤(2)	望月 由紀
8.	3 Д 23 Ц	文献クリティーク(2)	操 華子
9.	6月6日	 臨床現場における実験(介入)研究	深堀 浩樹
10.	0700	・	1木州 1日倒
11.	6月 20日	 看護学における知識の基盤(3)	望月 由紀
12.	0万20日	有受予に初りる知識の基盤(0)	主力 田心
13.	7月4日	 現象学的アプローチを用いた研究	大久保功子
14.	1月4日		ノヘクト「杯つ」、「
15.	7月25日	 グラウンデッド・セオリー法を用いた研究	山本 則子
16.	1 /7 Z0 H	ノファイナンド・ピタラー1ムを用いた明九	四个 別 1

看護教育学特論Ⅱ (看護学共通科目)

2単位(後期 木曜日 IV・V時限) 井上智子(本学先端侵襲緩和ケア看護学 教 授) 宮本真巳(本学 精神保健看護学 教 授) 佐々木明子(本学地域保健看護学 教 授) 舟島なをみ(千葉大学看護学部看護教育学 教 授) 亀岡智美(国 立 看 護 大 学 校 教 授) 木下佳子(NTT東日本関東病院 専門看護師) 濱口恵子(癌研有明病院 専門看護師)

1. 教育方針

学生は、看護師が持つ教育的機能の基本を理解し、さらに将来専門看護師として、あるいは看護教育・研究者として の役割を果たすために、それぞれに不可欠な教育の原理と技能を学ぶ。また教育的機能が看護ケアの質向上にもたらす 効果について理解し、そのための教育環境整備ならびに継続教育・生涯教育の在り方を学ぶ。

2. 教育目標

- 1) 看護師の教育的機能の原理と本質を学ぶ。
- 2) 専門看護師に必要な教育的機能とは何かを知り、看護ケアの質向上に生かす方略を学ぶ。
- 3) 看護師の能力開発のための教育プログラムと教育環境整備の重要性を学ぶ。
- 4) 看護師、専門看護師の継続教育の実際と課題を学ぶ。

3. 教育内容

(別表の通り)

4. 教育の進め方

授業は学生の主体的運営と、事前の課題学習、文献検索等の準備の基に、担当教師との打ち合わせによってすすめられる。

口	月日	内容	講師
1		ガイダンス	井 上
2		看護教育と看護学教育	舟 島
3		看護基礎教育と継続教育の理論と実際	舟 島
4		専門看護師の教育的機能の理論と実際	井 上
5		専門看護師育成プログラムと教育的機能	井 上
6		専門看護師の教育的機能の実際	木下
7		クリティカルケア看護専門看護師としてのスタッフへの教育的関わり	木下
8		専門看護師の看護ケア向上のための教育的関わりの実際	濱口
9		がん看護専門看護師としてのスタッフへの教育的関わり	濱口
10		教育的役割を果たすための能力開発	宮本
11		信頼関係形成、教育・相談機能、コンサルテーション能力とは	宮本
12		看護組織における教育環境の改善 ―問題の明確化―	佐々木
13		看護組織における教育環境の改善 一改善計画作成—	佐々木
14		看護師・専門看護師の継続教育の実際(教育内容、教育技法、教育評価)	亀 岡
15		看護ケア向上のための看護理論活用(理論検証とスタッフ教育)	亀 岡

看 護 政 策 学 特 論 (看護学共通科目)

2単位(後期 火曜 I・Ⅱ限)

深 堀 浩 樹 (本学看護システムマネジメント学 准教授)

1. 科目の教育方針

専門看護師として、あるいは看護教育・研究者として、看護の質向上のために制度等の改善を含む政策的な働きかけができるようになることを目的に、医療や看護をとりまく制度や政策の現状や政策の決定過程を学ぶ。

2. 教育目標

- 1) 看護を取り巻く制度・政策の実際や決定プロセスを理解する
- 2) 専門看護師、看護教育・研究者として制度上の現状を理解し課題・問題点を整理し、提示することができる。

3. 教育内容

看護を取り巻く制度・政策の実際と決定プロセスについて、看護学および法学・経済学などの関連領域の研究者や 行政官など実際の政策過程に携わる実践家からの講義を通して学ぶ。各自の臨床経験・研究テーマに関連した看護に 関連した政策・制度上の課題・問題点を整理・抽出し、改善のための方略を考案し、プレゼンテーションを行う。

4. 進行予定内容

回数	月日	時間	内容	講師
1	10月4日	10:30- 12:00	オリエンテーション/看護政策学概論	深堀浩樹
2.3	10月11日	9:30- 12:00	医療スタッフの業務分担・保助看法の今日的問題点	平林勝政 (國學院大學法科大学院)
4	10月18日	10:30- 12:00	看護課題を現場改善と政策に反映する方法	石原美和 (厚生労働省)
5.6	11月1日	9:30- 12:00	財政と医療: 経済学の視点	佐藤主光 (一橋大学大学院)
7.8	11月15日	10:00- 12:00	研究成果の社会への発信	石垣和子 (千葉県立保健医療大学)
9	11月29日	10:30- 12:00	看護政策課程演習① (課題の抽出・明確化)	深堀浩樹
10.11	12月20日	9:30- 12:00	日本看護連盟と日本看護協会の役割	石田昌宏 (日本看護連盟)
12.13	1月10日	9:30- 12:00	看護政策課程演習② (目標設定と計画立案)	深堀浩樹
14.15	5 後日調整		看護政策課程演習③ (プレゼンテーション・ディス カッション)	深堀浩樹・外部講師

^{*}日時・内容は講師都合等で変更されることがある。

5. 留意点

- 1) 最終日のプレゼンテーション・ディスカッションは、看護職能団体の職員や国会議員など実際に政策過程に携わっている方に協力を依頼する予定である。(日程は先方と受講者の予定を調整のうえ決定する。)
- 2) 成績は出席状況(50%)、プレゼンテーション・ディスカッションの準備状況・内容(50%)に基づいて評価する。
- 3) 進行予定・内容は、非常勤講師の予定等に応じて変更されることがある。

6. 連絡先

深堀浩樹

3号館15階 看護システムマネジメント学

内線:5352 e-mail:hfukahori.kanr@tmd.ac.jp

看護管理学特論 (看護共通科目)

2単位(前期 火曜日 I · Ⅱ 限)

深堀 浩樹(本学看護システムマネジメント学 准教授)

1. 科目の教育方針

看護管理者、もしくは専門看護師として、看護職によって構成される組織を効率的に運営し、その他の保健医療福祉に携わる人々の間の調整を行っていくことを可能にするために、看護管理とは何かを理解し、組織内におけるリーダーシップや調整機能、スタッフの能力開発などの理論および実際を学ぶ。

2. 教育目標

- 1) 看護管理に関連した知識を身につけることにより、看護管理者・専門看護師としての役割を有効に果たすための組織のあり方や動かし方の原理と技法を理解する。
- 2) 獲得した知識にもとづいた明確なプレゼンテーション・論理的なディスカッションにより、相互に意見を交換しながらこれからの看護管理の方向性を検討することができる。

3. 教育内容

看護管理およびその近接領域の研究者・実践家による講義を通して、組織におけるリーダーシップや調整機能、スタッフの能力開発など看護管理に関連する理論および実際を学ぶ。また、看護管理の知識を主体的に獲得するプロセスを重視し、看護管理学に関連した海外の書籍の輪読も併せて行う。講義の最後には学んだ内容に基づいたプレゼンテーションを行う。

4. 進行予定

回	E	日時(予定)	テーマ	講師	
_	4/19	10:30-11:00	初回ガイダンス (原書購読担当決定)	深堀浩樹	
1, 2	4/26	8:50-12:00	文献抄読①	深堀浩樹	
0.4	E /10	10.00 10.00	リッカーウン・ナン・1 /=# 辛)	伊藤謙治	
3, 4	5/10	10:00-12:00	リスクマネジメント(講義)	(東京工業大学大学院 教授)	
5	F /17	10:20 12:00	看護業務の効率化を実現する院内調整の	藤沢秀子	
б	5/17	10:30-12:00	実際(講義)	(元 河北総合病院看護部長)	
C	E /0.4	10.00 10.00	分34 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24	金井恵美子	
6	5/24	10:30-12:00	労務管理(講義)	(社会保険労務士)	
7,8	6/7	8:50-12:00	文献抄読②	深堀浩樹	
0.10	C /1 4	0.00 11.00	ーン・フリカトトを述 /#本学〉	松村啓史	
9, 10	6/14	9:30-11:30	コンフリクトと交渉(講義)	(テルモ株式会社取締役専務)	
11	7/5	10.00 10.00		橋本末子	
11	7/5	10:30-12:00	看護管理の実際(講義)	(虎の門病院分院 総看護師長)	
12, 13	7/12	8:50-12:00	文献抄読③	深堀浩樹	
14 15	7/10	0.50 10.00	文献抄読④、	2/11 HZ 3/H- 14H	
14, 15	7/19	8:50-12:00	学生プレゼンテーション	深堀浩樹	

5. 留意点

1) 使用する書籍: 初回ガイダンスにて発表する

(参考:平成22年度はLeading and Managing in Nursing, Fourth Edition, Patricia S. Yoder-Wise)

- 2) 文献抄読の発表の際は、書籍のレジュメを準備すると同時に、関連知識もしくは自身の臨床実践に関連した考察を加えること。(加える内容については初回ガイダンス時に示唆します)。
- 3) 最終日の学生プレゼンテーションでは、学習内容に応じたテーマを設定し、意見を異にするグループに分かれ各々 プレゼンテーションを行い、質疑応答を行う。学生相互にプレゼンテーションの評価(成績には影響しない)を行 い、内容について考察する。
- 4) 成績は、出席状況 (25%) および文献抄読 (50%)・プレゼンテーション・ディベート(25%)の内容に基づいて評価する。
- 5) 進行予定・内容は、非常勤講師の予定等に応じて変更されることがある。

6. 連絡先

深堀浩樹

3号館15階 看護システムマネジメント学

内線:5352 e-mail:hfukahori.kanr@tmd.ac.jp

看 護 病 態 生 理 学

2単位(前期 木曜日 V時限) 責任者 本田彰子(本学在宅ケア看護学 教 授) 山崎智子(本学在宅ケア看護学特任准教授) 樋野興夫(順天堂大学医学部 教 授) 植竹宏之(本学応用腫瘍学講座特任准教授) 新井文子(本学血液内科学分野 講 師) 神奈木真理(本学免疫治療学分野 教 授) 吉村亮一(本学腫瘍放射線医学分野 助 教) 山田陽介(都立豊島病院緩和ケア科 医 長) 武田祐子(慶応義塾大学看護医療学部 教 授)

1. 科目の教育方針

様々な病態を呈するがん患者の診断・治療を理解することにより、がん看護に関連した専門的知識を深める。

2. 教育目標

- 1) がんの病態生理全般を理解し、現在わが国におけるがん治療を概観する。
- 2) がんの診断に関する理解を深めることを通して、主要ながんの病態生理を理解する。
- 3) がんの治療法に関する理解を深めることを通して、看護が専門的に関わる状態にある対象者の病態生理を理解する。

3. 教育内容

表に示す。

4. 教育の進め方、運営

講義を通して、がんの病態生理に関する知識を深める。講師の授業の進め方により、事例提示、主要テーマの文献検索、プレゼンテーション、ディスカッションを取り入れる。また、本学医歯学総合研究科「がん医療に携わる専門医師養成コース」で開講される関連科目を、教育内容を考慮し、必要に応じて聴講する。

5. 評価

授業への参加状況、及びレポート。

疾病の病態生理の特徴から影響を受けて生じる療養上の課題を見出し、それに対応した看護援助方法を考案することをレポートの内容とする。

口	月日	F	为 容	担当	
1	4月7日	がん病態生理概論			
2	4月14日			樋野興夫	
3	4月21日				
4	4月28日				
5	5月12日		工体证证	htt: 660000 - 1-a	
6	5月19日		手術療法	植竹宏之	
7	5月26日		71。) 公式	サビルーヤーフ	
8	6月2日		化学療法・幹細胞移植	新井文子	
9	6月9日	がん治療に伴う	左, v左, v左, v4	物大小吉畑	
10	6月16日	病態生理	免疫療法	神奈木真理	
11	6月23日		+6.0.1.00.0== 74-		
12	6月30日		放射線療法	吉村亮一	
13	7月7日		经 五十一字(111111111111111111111111111111111111		
14	7月14日	緩和ケア(症状コントロール)		山田陽介	
15	7月21日	ぶり か事厂学 1、井 4世4			
16	7月28日	がんの遺伝学と先端的	J石/原	武田祐子	

在宅ケア·緩和ケア看護学特論 A-1

2単位(前期後半 月曜日 I・II時限) 責任者 本田彰子(本学在宅ケア看護学 教 授) 山﨑智子(本学在宅ケア看護学 特任准教授) 松下祥子(本学在宅ケア看護学 特任地教授) 内堀真弓(本学在宅ケア看護学 特任助教) 宮本真巳(本学精神保健看護学 教 授) 水野道代(筑 波 大 学 大 学 院 教 授) 佐々木吉子(本学先端侵襲緩和ケア看護学 講 師)

1. 科目の教育方針

診断・治療の時期より在宅療養及び終末期に至るまでのがん患者に対して、専門的看護援助を実践する基礎となる理論 を理解し、対象となる看護場面で理論を活用する方法を身につける。

2. 教育目標

- 1) 診断・治療期の援助の基礎となる理論について理解する。
- 2) 急性期・回復期の援助の基礎となる理論について理解する。
- 3) 慢性期・在宅療養および終末期の援助の基礎となる理論について理解する。

3. 教育内容

表に示す。

4. 教育の進め方、運営

教育目標にあげた内容に適した理論に関する講義を通して、援助行為に通ずる基本的理論を理解する。講師の授業の進め方により、事例提示、分析、ディスカッション等を取り入れる。受講生の関心のある理論を用いて、実践事例の記述及び理論を用いた分析を行い、その経過及び結果を発表する。

5. 評価

授業への参加状況、及び事例分析を含めたレポート。

関心の深いがん看護領域での問題と課題を見出し、それに対応した看護援助方法を考案することをレポートの内容とする。

口	月日	F	为 容	担当
1	4月11日Ⅱ	コースオリエンテーション・コーピング		本田彰子・山﨑智子 松下祥子
2	4月18日 I			⇔ +≠□
3	4月18日Ⅱ	診断・治療期の	意思決定理論	宮本真巳
4	4月25日 I	援助の基礎となる 理論	7.166703A 7.1667	W > 4++-7
5	4月25日Ⅱ		危機理論・危機モデル	佐々木吉子
6	5月9日 I	急性期・回復期の 援助の基礎となる 理論	7761. × 0783A	1. mz \\ /\
7	5月9日Ⅱ		不確かさの理論	水野道代
8	5月16日 I		トュートマートマルン が押み	4. 四本 コ
9	5月16日Ⅱ		セルフケア・ケアリング理論	内堀真弓
10	5月23日 I			. Lukt from =>
11	5月23日Ⅱ	慢性期・在宅療養 および終末期の	Loss&Grief	山﨑智子
12	5月30日 I	援助の基礎となる		<u>-</u>
13	5月30日Ⅱ	理論	ホスピスケアの理論	本田彰子
14	6月6日 I			本田彰子・山﨑智子
15	6月6日Ⅱ	天践事例分析及び発表	実践事例分析及び発表	

在宅ケア·緩和ケア看護学特論 A-2

2単位(前期前半 金曜日 I・Ⅱ時限) 責任者 本田彰子(本学在宅ケア看護学教授) 山﨑智子(本学在宅ケア看護学特任准教授) 松下祥子(本学在宅ケア看護学権教授) 井上智子(本学先端侵襲緩和ケア看護学教授) 蛭田みどり(ケアタウン小平訪問看護ステーション所長)

1. 教育方針

本科目では、がんの罹患から、病院で侵襲的治療を受け、外来通院をしながらがんと共存し治療を続け、種々のサポートを受けながら生活し、さらに終末期に至るまでのがん患者の緩和ケアについての基本的な援助方法について学ぶことを目的とする。

2. 教育目標

- 1) 在宅・緩和ケアを必要とする人々の病態的な特性、がん治療・がん看護の現状を理解する。
- 2) 診断および治療に伴う問題の把握とその解決に向けた援助方法を理解する。
- 3) がん罹患に関連して様々な苦痛の把握と苦痛緩和に向けた援助方法を理解する。
- 4) 在宅ケアにおけるがん終末期看護について理解する。

3. 教育内容

表に示す。

4. 教育の進め方、運営

各単元の学習内容に沿った講義を受け、さらに事前に分担した内容について、研究論文及び実践事例報告等を検索し、 その内容を講義に合わせてプレゼンテーションし、ディスカッションを行う。最終レポートは、分担したテーマのプレ ゼンテーション内容をまとめるものとするが、講義やディスカッションの内容を含めた考察と、効果的な援助方法の発 展に向けて意見を含めるものとする。

5. 評価

科目の評価は、出席、最終提出レポート、プレゼンテーション、ディスカッション参加状況により行う。

□	月日		内 容	講師
1	4月8日 I	がん看護・緩和 ケア概論		
2	4月15日 I		インフォームドコンセントと意思決定 診断時の援助	山﨑智子
3	4月15日Ⅱ	診断・治療に伴う 接助	治療による苦痛と援助(手術療法)	井上智子
4	4月22日 I		治療による苦痛と援助(化学療法・骨髄移植)	山﨑智子
5	4月22日Ⅱ		治療による苦痛と援助(放射線療法・免疫療法)	山﨑智子
6	5月6日 I		回復期の苦痛と援助 (セクシュアリティ・形態機能障害) (1)	本田彰子
7	5月6日Ⅱ		回復期の苦痛と援助 (2)	本田彰子
8	5月13日 I		がん罹患とそれにまつわるコーピング(1)	井上智子
9	5月13日Ⅱ	がん罹患に伴う	がん罹患とそれにまつわるコーピング(2)	井上智子
10	5月20日 I	苦痛への援助	代替療法・相補療法の発展と今後の役割(1)	本田彰子
11	5月20日Ⅱ		代替療法・相補療法の発展と今後の役割(2)	山﨑智子
12	5月27日 I		緩和ケア病棟・ホスピスの実際と現状	蛭田みどり
13	5月27日Ⅱ		在宅ホスピスにおけるチームアプローチ	蛭田みどり
14	6月3日I	終末期ケア	家族・遺族への援助(1)	松下祥子
15	6月3日Ⅱ		家族・遺族への援助(2)	松下祥子

在宅ケア・緩和ケア看護学演習A

2 単位(後期 火曜日 **Ⅲ・Ⅳ**時限)

責任者 本田彰子(本学在宅ケア看護学教授) 山﨑智子(本学在宅ケア看護学特任准教授) 松下祥子(本学在宅ケア看護学准教授) 阿部恭子(千葉大学看護学部

乳がん認定教育課程専任教員)

中島恵美子(杏林大学保健学部看護学科 教 授) 花出正美(癌研究会有明病院専門看護師)森本悦子(聖隷クリストファー大学看護学部 准教授)井上智子(本学先端侵襲緩和ケア看護学 教 授)武田祐子(慶応大学看護医療学部 教 授)石巻静代(ケアタウン小平クリニック医師)

1. 教育方針

本科目では、がん看護に関する現在の課題、およびアセスメントと援助について、看護実践の事例を通して言及し、関連する専門家や実践家の取り組みおよび見解、研究成果を含めた幅広い文献検討を活用した考察を行うことにより、客観的に実践を評価・検討する能力を習得する。

2. 教育目標

- 1) 文献による事例や自己の看護実践を通して、がん看護における課題を見出すことが出来る。
- 2) 演習事例分析に取り組み、効果的な支援方法について学ぶ。
- 3) がん看護の研究課題を見出す。

3. 教育内容

表に示す。

4. 教育の進め方、運営

学生の研究課題に関連した実践事例を提示し、発表とディスカッション中心のゼミ形式で進める。関心のあるテーマを 考慮して、文献検討、ディスカッションの準備を分担して複数の学生で協力して行う。また国内外の現状も含めた文献 検討が求められるので、外国雑誌等を活用する。担当教員は、学生のプレゼンテーション時に内容にあった実践の提示 及びコメントを提供することにより、学習を深める。

5. 評価

科目の評価は、出席、最終提出レポート、プレゼンテーション、ディスカッション参加状況により行う。

旦	月日		内	內 容	講師
1 • 2	10月4日	がん患者のQOLについ	いて:	概説	本田彰子
3 • 4	10月11日		病名	・病状の説明の受け入れ	山﨑智子
5 • 6	10月18日	がん罹患および	治療	法の選択	山﨑智子
7 • 8	10月25日	療養に伴う 意思決定	療養	の場の選択	本田彰子
9 • 10	11月1日		終末	期における選択	山﨑智子
11.12	11月8日	治療初期における 患者の家族の	外科	的治療を受ける患者と家族	井上智子
13.14	11月15日	捉え方	患者	・家族への対処プログラム	松下祥子
15.16	11月22日	治療継続および 社会復帰の時期の	化学	療法を受ける患者と家族	中島恵美子
17.18	11月29日	患者と家族の捉え方	放射	線療法を受ける患者と家族	森本悦子
19.20	12月6日	がん患者の形態機能		乳がん	阿部恭子
21.22	12月13日	における変化と受容		頭頚部がん	花出正美
23.24	12月20日	QOLを高める援助		消化器がん	武田祐子
25.26	1月10日	セルフヘルプグループ・		んサバイバーへの支援	山﨑智子
27.28	1月17日	緩和ケアにおける マネジメントと	がん	の進行に伴う症状緩和	石 巻 静 代
29.30	1月24日	援助	家族関係·療養環境調整		松下祥子

在宅ケア・緩和ケア看護学特論B

2単位(後期 月曜日 Ⅲ時限) 本田彰子(本学在宅ケア看護学教授) 山﨑智子(本学在宅ケア看護学特任准教授) 松下祥子(本学在宅ケア看護学権教授) 山田陽介(都立豊島病院緩和ケア科医長) 川越厚(ホームケアクリニック川越院長) 川越博美(訪問看護パリアン) 大谷木靖子(昭和大学医学部付属病院がん専門看護師) 松島英介(本学心療・緩和医療学分野 准教授) 濱口恵子(癌研究会有明病院副看護部長・

がん専門看護師)

1. 教育方針

本科目では、緩和ケアと終末期看護の特定専門領域に焦点をあて、ホスピス、緩和ケアの歴史を踏まえ、現在の課題を明確にし、初発治療期から終焉までの緩和ケアの方略を探究する。

診断・初発治療期から生じる様々な問題、種々の症状への緩和ケアと自己管理、そして、終末期における療養環境のコーディネーションと家族へのかかわりを学習内容とする。また、これらの内容について、看護実践の国際的状況比較を含めた 我が国の現状を理解し、看護実践の状況を把握しかつ課題分析を行い、専門的取り組みの必要性を理解した上で、具体的看護実践の提言をすることを学習方法とする。

2. 教育目標

- 1) 在宅ケア・緩和ケアを必要とする人々の看護実践上の課題を説明できる。
- 2) 在宅ケア・緩和ケアを必要とする人々の終末期における療養環境のコーディネートおよび家族看護の現状および、その看護実践上の課題を説明できる。

3. 教育内容

- 1) 教育目標の内容に沿って、現状と課題を見出すべく、関連文献を用いてプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。その際、領域専門の教育研究者、実践者より専門的視点からのコメントを得ることにより、現状および課題を統合し、今後の対応策を検討する。
- 4. 教育の進め方、運営、評価

テーマに沿った講義を受け、理論的基盤を修得する。

科目の評価は、出席、最終提出レポート、プレゼンテーション、ディスカッション参加状況により行う。

□	月日		内 容	講師	
1	10月3日	緩和ケアの概念・	緩和ケアの概念・緩和ケアの現状		
2	10月17日	全人的ケア	と人的ケア		
3	10月24日		在宅終末期医療の実際とチームアプローチ	川越 厚	
4	10月31日	在宅における療養環境のコーデ	住七ド不利区原の天际とテームアプローナ	川越 字	
5	11月7日	ィネートおよび	終末期がん患者と家族への援助	川越 厚	
6	11月14日	家族看護	「京大学」が「D 芯石 C 水原、マグラ		
7	11月21日		終末期がん患者の在宅療養支援	川越博美	
8	11月28日		小: 小旁/// 10 芯·台 ∨/ 1. 七·原 長 又· 1g	川極侍天	
9	12月 5 日			大谷木靖子	
10	12月12日	その他の症状マネ	その他の症状マネージメント		
11	12月19日	サイコオンコロシ	ジーの視点でのアプローチ	松島英介	
12	12月26日	生命倫理•	DNR/セデーション/尊厳死	100001	
13	1月16日	がん専門病院にお	がん専門病院における CNSの役割		
14	1月23日	CN			
15	1月30日	チームアプローチ	- 緩和ケアチーム	本田彰子 山﨑智子	
16	2月6日		984 (112-2-2-2-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1	松下祥子	

在宅ケア・緩和ケア看護学演習B

2単位(後期 月曜日 IV・V時限) 本田彰子(本学在宅ケア看護学教授) 山﨑智子(本学在宅ケア看護学特任准教授) 松下祥子(本学在宅ケア看護学准教授) (協力施設臨床教授・臨床講師・専門看護師)

1. 教育方針

在宅ケア・緩和ケア看護学特論A・B、在宅ケア・緩和ケア看護学演習Aにおいて学んだ基本を基に、苦痛を体験している人とその家族への看護援助を効果的に行うためのアセスメントの方法を習得する。外来通院で緩和ケアを受けるがん患者・家族、施設ホスピスで緩和ケアを受けるがん患者・家族、在宅で終末期在宅療養し緩和ケアを受けるがん患者・家族の苦痛のアセスメントの視点を、実践を通して学び、アセスメント能力を高める。

2. 教育目標

- 1) 外来通院で緩和ケアを受けるがん患者・家族、施設ホスピスで緩和ケアを受けるがん患者・家族、在宅で終末期在宅療養し緩和ケアを受けるがん患者・家族の事例から、患者の治療・療養上の問題をアセスメントする基礎的能力を習得する。
- 2) 外来通院で緩和ケアを受けるがん患者・家族、施設ホスピスで緩和ケアを受けるがん患者・家族、在宅で終末期在宅療養し緩和ケアを受けるがん患者・家族に対する看護実践を通して、援助の方向性を見出し説明することができる。

3. 教育内容

表に示す。

4. 教育の進め方、運営

外来通院中の患者、施設ホスピスで療養中の患者、在宅で終末期在宅療養中の患者の健康問題(治療による苦痛、がん性疼痛、倦怠感など)とその家族について、アセスメントの基本的方法を学ぶ。実践を通して患者の健康問題をアセスメントし、収集したデータを系統的に分析し、アセスメントの視点を検討する。アセスメントの視点に基づき、患者の健康問題を包括的に検討し、援助の方向性を見出す。具体的には下記の方法を用いる。

ベッドサイドティーチング

- ・ベッドサイドにて情報収集の実践と連携施設看護師によるアセスメント実践指導。
- ・当該施設での看護計画に従った対象患者への看護実践。

学内演習(検討会)プレゼンテーション

- ・事例の情報の提示及びアセスメント。
- ・問題の明確化及び援助の方向性の提示。

5. 評価方法

1) 評価

指導者による評価、検討会によるプレゼンテーションと討議内容

口	月日	内 容	講師
$ \begin{array}{c} 1 \cdot 2 \\ 3 \cdot 4 \\ 5 \cdot 6 \\ 7 \cdot 8 \end{array} $		緩和ケア・在宅 在宅療養中の時期にある事例の情報収集及び看護実践 (協力施設:訪問看護パリアン他)	施設担当看護師 (臨床教授・講 師及び専門看護 師を含む)
9 • 10		学内演習(事例検討)	本田彰子 山﨑智子 松下祥子
11·12 13·14 15·16 17·18		緩和ケア・施設ホスピス 施設ホスピスで療養中の事例の情報収集及び看護実践 (協力施設:都立豊島病院他)	施設担当看護師 (臨床教授・講 師及び専門看護 師を含む)
19•20		学内演習(事例検討)	本田彰子 山﨑智子 松下祥子
21·22 23·24 5·26 27·28		緩和ケア・外来 外来継続治療中の事例の情報収集及び看護実践 (協力施設:都立豊島病院他)	施設担当看護師 (臨床教授・講 師及び専門看護 師を含む)
29:30		学内演習(事例検討)	本田彰子 山﨑智子 松下祥子

在宅ケア・緩和ケア看護学実習

6単位

本田彰子(本学在宅ケア看護学 教 授)山崎智子(本学在宅ケア看護学特任准教授)

1. 教育方針

本実習はがん看護専門看護師受験資格を得る目的で設定されている。病院から在宅療養への全過程を通し、がん看護専門 看護師としての基礎的態度、判断能力、実践能力を身につける。

2. 教育目標

- 1) 複雑な問題を持つがん患者・家族への専門的で高度な質の高い看護実践能力を習得する。
- 2) がん専門看護師の役割、調整、相談、教育、倫理調整について学ぶ。
- 3) 変化する社会情勢と保健医療の状況の中での役割開発をめざす。

3. 教育内容

1) 実習内容・実習計画

病院から在宅に移行する過程の援助(退院移行期)、外来治療を受けながら社会生活を送る段階の援助(外来通院療養期)、訪問看護における在宅での援助(ターミナル期)、といった3つの時期の実習から2つを選択し、高度な看護実践を行う。

またがん専門看護師が所属する施設においてがん専門看護師の指導のもとに専門看護師の役割(相談・調整・教育・倫理調整)について、見学・参画しながら学習する。

2) 実習指導体制・実習場

実習施設への依頼や実習内容の調整は担当教員と共に行い、実習施設指導者のもとで個別の実習指導体制を整 える。

実習場:都立駒込病院・都立豊島病院・千葉大学医学部付属病院・東邦大学医療センター大森病院 ケアタウン小平クリニック・ケアタウン小平訪問看護ステーション ホームケアクリニック川越他

3) 実習方法

療養段階の3つの実習場所から2つ以上、3名以上の患者を受け持ち、がん看護専門領域の看護スタッフの指導のもと高度な看護実践を行う。(実習時期:1年後半)

がん専門看護師と共に行動し、その役割を実践体験する。(実習時期:2年前半)

- 4) 実習記録・レポート・評価
 - ① がん看護実践への取り組み、態度
 - ② 受け持ったがん患者の看護の実践・分析・評価についてのレポート
 - ③ がん看護専門看護師の役割についての実践レポート
 - ④ 今後のがん看護師の役割・教育のあり方に関するレポート

在宅ケア・緩和ケア看護学の実習

実習目的	実習内容
がん看護専門看護師の大学院教育と	乗り内谷 病院から在宅に移行する過程の援助(退院移行期)、外来治療を受けながら社会
かん有護等門有護師の人子院教育と して必要とされる能力	生活を送る段階の援助(外来通院療養期)、訪問看護における在宅での援助(タ
して必安とされる能力	ーミナル期)、といった3つの時期の実習で、適切な専門的援助を行う。がん看
	護専門看護師としての役割について実践を通し深めていく。
1. 実践	一
	学生が深めたいと希望する2つ以上の療養段階を選択し、患者を3名以上受け
がん患者・家族への卓越した看	持ち、患者・家族への卓越した看護を目指した実践を行う。
護実践を行う	
12. 教育	 専門領域の看護スタッフの指導のもとに、職員教育に参画する。
2. 教育 看護職者に対しケアを向上さ	等門限域の有護へグップの指導のもこに、職員教育に参画する。
せるための教育的機能を果たす	
ともための教育印成品と木だり	
3. 相談	 看護チームメンバーからコンサルテーションを受ける場面に参画し、専門領域
看護職者と他のケア提供者に	の指導者と共にその実践を行う。
対する相談の役割を学ぶ	VIII TO CONSIDER OF THE CONSID
74 / WINC CHIC 10	
4. 調整	 受け持ち患者のケアが円滑に提供されるために必要な、医師、薬剤師、看護職
ケアが円滑に提供されるため	者、保健医療福祉に携わる人々との連携、調整をはかる。
に保健医療福祉に携わる人々の	
コーディネーションを行う	
5. 研究	がん看護専門分野において、専門知識・技術の向上や開発を目指し、取り組む
専門知識・技術の向上や開発	べき課題を見出し、研究活動を実践する。
を図るために実践の場における	
研究活動に取り組む	
6. 倫理	がん看護における倫理的な問題について、患者・家族・ケア提供者・関係機関の
倫理的な葛藤が生じた場合、	間に立って調整をするために実習指導者やスタッフと検討する場をもって実習
関係者間での調整を行う	する。

専攻教育課程照合表

専門看護分野:がん看護

	科目	大学院該当科目	その科目の内容	履修 単位	認定 単位
	1.がんに関する病 態生理学	看護病態生理学	様々な臨床像を示すがん患者の病態生理学的特徴および発 癌のしくみ、腫瘍疫学、遺伝学、診断・治療学、緩和ケア 学についての知識を深め、あらゆる時期のがん患者のケア の改善および開発に役立てる方略を学ぶ。各回で専任教 員・担当講師とともに、講義内容と事例をもとに討議を行 い、病態の理解を深めていく。	2	2
専攻分野共	2.がん看護に関する理論	在宅ケア・緩和ケア 看護学特論 A-1	がん患者とその家族を全人的に捉え、専門的ながん看護を行っていく上で基礎となる主要理論(意思決定理論、危機理論・危機モデル、不確かさの理論、セルフケア・ケアリング理論、Loss&Grief、ホスピスケアの理論)ついて学び、さらにその活用について各自の実践経験に基づく事例分析を通して探求する。	2	2
通科目	3.がん看護に関する看護援助	在宅ケア・緩和ケア 看護学特論 A-2	がんの予防、早期発見、病名・予後告知、治療の選択、診断・治療に伴う援助法、および症状緩和などのテーマで、アセスメントおよび基本的看護援助について、学生のプレゼンテーション、専任教員および担当講師とともにディスカッションを行い、問題探究・解決能力を高める。	2	2
		在宅ケア・緩和ケア 看護学演習A	がんの予防、早期発見、病名・予後告知、治療の選択、診断・治療に伴う援助法、および症状緩和などについてのアセスメント、援助法について、実践の困難事例を通し、がん看護の実践家、専門家および専任教員との討議を通し、現状の課題とその解決策を探求する。	2	2
	1.化学療法看護				
	2.放射線療法看護				
	3.幹細胞移植看護				
	4.がんリハビリテ ーション看護				
専	5.疼痛看護				
攻分野専攻科目	6.緩和ケア	在宅ケア・緩和ケア 看護学特論 B	緩和ケアに関して、がん看護専門職としての具体的看護援助方法について、また、終末期における療養環境のコーディネーションおよび家族・遺族への看護のあり方について検討する。学生の専門とする領域にしたがって、国内外の研究成果の分析・実践事例分析を行い、現在の課題を明確にし、初発治療期から終焉までの緩和ケアの方略を探究する。	2	2
	7.ターミナルケア	在宅ケア・緩和ケア 看護学演習 B	がんの緩和ケアにおける諸問題、および終末期ケアに関する現在の課題について、看護実践事例を通して、理論、実践家の取り組みを参考に分析検討を行い、症状緩和を必要とする患者とその家族への看護援助を探究する。	2	2
	8.予防・早期発見				
実習科目	実習	在宅ケア・緩和ケア 看護学実習	がん看護専門看護師に必要な判断能力、基礎的態度、実践 能力を養う。特に入院から退院準備の時期、治療を受けな がら社会復帰を送る時期、緩和ケアが必要な終末期への看 護支援に重点を置く。	6	6
	l	l		申請追	 単位数

申請単位数 18 単位

医学物理士養成コース 放射線治療品質管理士養成コース

種別: 放射線基礎、放射線応用、医歯工学基礎、医歯工学医学物理

下記の表を参照のこと 科目名: 科目責任者: 下記の表を参照のこと 科目担当者: 下記の表を参照のこと 授業予定月日: 平成23年8月22日~10月28日

講義開催場所: 田町キャンパスCICで開講

備考: 1 東京医科歯科大学医歯学総合研究科及び東京工業大学医歯工学特別コースの共同開催となる。

2 がん専門医師養成コースの4科目はコメディカルコースと合同開催科目となる。

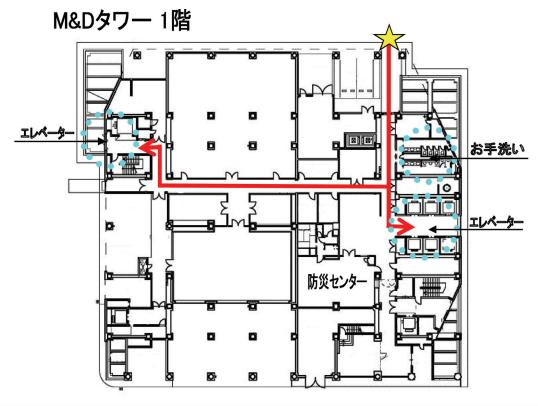
科目名	単位	責任者	講義担当予定者	講義概要
医歯工学概論	1	小杉	小杉幸夫(総理工)· 高瀬浩造(医歯大)· 田中順三(理工)	医歯工学に関わる基礎的事項を説明し、医療を支える 医学の特殊性、医療における診断の概要、治療方法の 概要ならびに医療における倫理面の問題と対応方法に ついて医学・工学の両面より論じる。
人体機能学	1	高瀬	平尾見三・三浦宏之・ 東條尚子・宗田大(医歯大)	人体の機能に関する解剖・生理・生化学的基礎を,循環生理,呼吸生理,運動生理顎口腔生理の立場から,臨床面に重点を置きながら解説する。
人間安全工学	1	伊能	中村聡(生命)·宇治橋貞幸 (情報理工)·八木透(情報理 工)·林崎規託(原子炉)·小杉 幸夫(総理工)	機械, 化学, 電気など各工学分野の立場から生体に対する安全性や, 人間工学に対する考え方を論じる。
放射線物理学·放射線技術 学特論	1		阿部慎司(茨城県医療大)· 保科正夫(群馬県健科大)	医療における放射線技術の概要を述べるとともに、その根拠となる物理学的な背景について概説する。また、 医療放射線技術における基盤である放射線防護の基本について、臨床現場での対応を含め、解説する。
医用放射線診断学·核医学 (腫瘍放射線診断学·核医 学特論)	1	高瀬/大橋	大橋勇·久保田一徳(医歯大)	放射線科領域における磁気・超音波を含めた診断技法 の原理および概要を講じるとともに、それぞれの適応と 臨床応用の実際についても論じる。
医用放射線生物学 (腫瘍放射線生物学特論)	1	高瀬/三浦	三浦雅彦・渡邊裕(医歯大)	放射線が生物に対して与える影響について、分子レベル、細胞レベル、個体レベル、および集団レベルで論じる。また、病態・疾患との関連について講じる。
医用画像情報学(医歯工学)	2	小尾	大山永昭·山口雅浩· 小尾高史(総理工)	放射線画像やカラー画像機器における画像再構成技術, 画像診断支援技術と, 画像保存や通信などの画像管理におけるセキュリティ技術について講義する。
医療機器開発概論	1	小杉	梶川浩太郎(総理工),吉川史郎(理工)・瀬尾育弐(駒澤大)・井出勝久(医薬品医療機器総合機構)・赤池敏広(生命)・大森健一(小林メディカル)依田潔(エレクタ)・斉藤吉毅(オリンパス)・澄田政哉(旭化成くられメディカル)	医療機器の開発の現場で遭遇する諸問題(含 GLP,GCP,GMP)について,各実務担当者が講じる。
放射線治療学 (腫瘍放射線治療学特論)	1	高瀬/渋谷	渋谷均(医歯大)	医療における放射線治療の意義とその応用範囲,線量 測定・治療計画の方法論,他の治療法との関連および 副作用・安全管理について論じる。
放射線治療物理学	1	河野	河野俊之(総理工)·金井達明 (群馬大学)·松藤成弘·水野 秀之·兼松伸幸(放医研)	医療用放射線の発生と計測法, 照射装置の設計, 線量測定の理論, 線質測定の理論, 小線源の線量測定, 照射技術と線量計算(治療計画), 治療周辺装置, について詳しく論じる。
核医学物理学	1	河野		放射性薬剤の生産(製造,核種),吸収線量評価,試料 測定技術,体外測定技術について論じる。
放射線医療実習	1	河野	水野秀之·蓑原伸一· 兼松伸幸(放医研)	Co照射装置による電離箱の絶対線量校正, 水中線量分布の測定, 小線源の線量測定, ガラス線量計による線量測定, などの線量測定技術の実習, および治療計画装置の実習。
医用放射線発生装置学	1	小栗	服部俊幸·林崎規託· 小栗慶之·小原徹(原子炉)	放射線発生装置としての粒子加速器,原子炉システムについて,その動作原理と診断・治療・アイソトープ製造等,医療分野への応用例について解説する。
人体解剖病態学	1	高瀬	山田哲夫·遠藤太嘉志· 秋田恵一(医歯大)	医工学に必要な形態学を包括的に教授しながら、医学の基礎である肉眼解剖学および病理学を、人体にかかわるマクロからミクロの構造として理解することを目的とする。特に、構造にかかわる正常機能と機能異常について解説する。

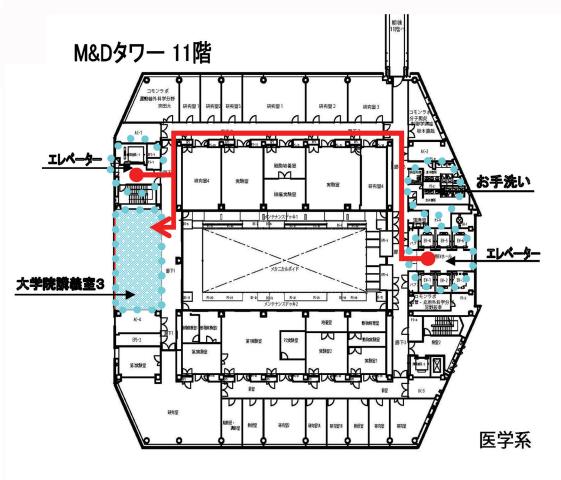


内の経路は仮設となっておますので、変更されている場合があります。

☆ がM&Dタワーの入口です。
エレベーターで11階までお越しください。







日本医科大学



東京工業大学 田町キャンパス CIC(キャンパス・イノベーション・センター)

